

科目名	人間科学概論		科目コード	W22015	単位数 時間	2単位	対象 学年	1年	開講 学期	前期
			科目ナンバリング	W-TFSS1-01H		30時間				
区分	社会科学系科目	必修	担当者名	小山内 詩織・西沢 勝則・ 齊藤 利男			授業 形態	講義	オムニバス	
授業の 概要等	〔授業の主旨〕 社会学、心理学、歴史学という3つの分野の知見を学ぶことで、人間、社会、文明、およびそれらの結びつきについての理解を深めます。 1～5回は西沢（心理学）、6～10回は齊藤（歴史学）、11～15回は小山内（社会学）が担当します。									
	〔ディプロマポリシー及びカリキュラムポリシーとの関連する事項〕 ディプロマポリシーの1、2、3、4に関連し、カリキュラムポリシーの1-2、2-2、3-2、4-2に関連している									
到達 目標	<ul style="list-style-type: none"> 人間行動に関する心理学の基本的な知見について、その概要を理解する。（西沢） 自身の日常生活における経験等と関連付けて、心理学的知見の要点を説明できる。（西沢） 戦争をめぐる人間の歴史を知り、戦争を空想でなく、身近な問題としてとらえることができるようになる。（齊藤） 社会で起きている事象を理解することで人々の意識が変化し、人々の意識の変化が社会に変革をもたらすことを理解する。（小山内） 									
授 業 計 画										
回	主 題			授 業 内 容 ・ 授 業 時 間 外 の 学 修					備 考	
第1回	感覚・知覚の世界			感じるしくみ、恒常性、錯視、色覚						
第2回	注意と記憶			選択的注意、注意の障害、記憶障害、記憶の変容						
第3回	思考のくせ			問題解決、ヒューリスティックス、認知的不協和						
第4回	言語とコミュニケーション			言語の習得、コミュニケーションの機能、ディスレクシア						
第5回	感情の理解と共感			感情の種類、推論する心の発達、共同注意、心の理論						
第6回	戦争と文明 1、「大量殺戮時代の戦争」の始まり、映像から考える			第一次世界大戦を扱ったNHKスペシャル「映像の世紀」第2集、大量殺戮の完成、を通して、現代の戦争とはどのようなものかを考える。					ビデオを使用	
第7回	戦争と文明 2、原始、人間社会は平和だった			古代文明社会における「戦争」の始まりを、人類の歴史から探る。						
第8回	戦争と文明 3、戦争と軍隊はこうして生まれた			軍事国家としての古代国家の誕生と古代軍隊の特徴、そしてその崩壊過程を、日本や世界の古代の歴史から探る。					ビデオを使用	
第9回	戦争と文明 4、近代国家と「国民軍」の誕生ー庶民の苦難の時代の始まり			近代社会の到来は戦争と軍隊のあり方を根底から変えた。一部映像資料も使いつつ、「近代軍隊」と近代国家の実像に迫る。					ビデオを使用	
第10回	戦争と文明 5、太平洋戦争とは日本人にとってどのような戦争だったか			私たち日本人が最後に経験した戦争（そうであればよいが）「太平洋戦争」に関する映像資料を見ながら、日本の未来を考える。					ビデオを使用	
第11回	社会学の位置づけ			社会学が様々な学問分野とのつながりを持っていることを理解し、自身の生活との関係性を考える。					小山内	
第12回	日本が直面する持続可能性に関する課題			高齢化社会が深刻な状況である日本の持続可能性について考える。					小山内	
第13回	社会学とSDGs			SDGsの成り立ちや内容について学び、ポストSDGs時代の持続可能性について考える。					小山内	
第14回	社会学とグローバル化			グローバル化が進んだ社会が世界全体や日本に与える影響について考える。					小山内	
第15回	社会学と災害科学			自然災害が多い日本で、災害が起こるメカニズムや災害時に直面する課題について考える。					小山内	
授業方法(学びの場、学びの場、学びの場等)	リフレクションシート									
	第11回から第15回は、各回の授業で扱うトピックについてディスカッションする。									
評価方法及び評価基準	<p>(西沢) 毎回の講義で課す小レポートにより講義内容の理解度を評価します。</p> <p>(齊藤) レポートを課し、出席とあわせて、評価を行います。レポートは課された課題について、主体的に考えているかどうかを評価の基準とします。</p> <p>(小山内) 授業の最終回の時に課題を提示しますので、その題材についてのレポートで評価します。課題に対する自身の考えが述べられているかどうかを評価基準とします。(参加態度：40点、期末レポート60点)</p>									
課題等	課題については、授業内で指示する。									
事前事後学修	授業で配布されるプリント、授業中に指示される文献等を参照して、理解を深めてください。 事後学習時間の目安：週当たり3時間程度。									
教材教科書参考書	(齊藤) 教科書・教材はこちらでプリントを用意し、授業の際に配付します。参考書は適宜提示します。 (小山内) 教科書は使用しません。資料は適宜配布します。									
留意点	(齊藤) 「歴史」は決して難しくありません。「面白そう」と思ったら、聞きに来て下さい。									

科目名	政治学（国際政治を含む）A		科目コード	W22001	単位数	2単位	対象	1年	開講	前期	
			科目ナンバリング	W-TFSS1-02	時間	30時間	学年		学期		
区分	社会科学系科目 教職科目（中一種【社会】） 教職科目（高一種【公民】）	選択 選択必修 必修	担当者名	西東 克介				授業 形態	講義	単独	
授業の 概要等	<p>〔授業の主旨〕</p> <p>今日、社会全体がどちらかと言えば政治に無関心な状況が蔓延しています。そこでこの講義のねらいは政治と私たちの社会とのような関係にあるのかを受講生に理解・意識してもらうことにあります。</p> <p>〔ディプロマポリシー及びカリキュラムポリシーとの関連する事項〕</p> <p>ディプロマポリシーの1、2、3、4に関連し、カリキュラムポリシーの1-3、2-2、3-2、4-2に関連している</p>										
到達 目標	<p>・3点の理解を求めます。①なぜデモクラシー（民主主義）は悪魔にもなりうるのでしょうか。②なぜ政治や権力が人間の社会に不可欠なのでしょう。③江戸幕府までの政治組織と近代行政官僚制ではどこが異なるのでしょうか。</p>										
授 業 計 画											
回	主 題			授 業 内 容 ・ 授 業 時 間 外 の 学 修					備 考		
第1回	本講義概要・展開方法・試験等について			さらに、出欠や感想文とレポートの違いについて説明を行います。							
第2回	政治とは何か			非常に広い意味の概念だが、できる限りわかりやすく説明し、理解していただきます。							
第3回	権力とは何か・権威とは何か			M. ウェーバーの支配（権力）の正当性を使い、私たちの国・地方・コミュニティ・世界に存在する権力について解説し、理解。							
第4回	弘前市議会議員を5名呼び、市政への関心を学生に高めてもらう。			次回第5回の初めの30分でワークショップを開催し、記録を取る。							
第5回	マスメディアと政治			民主主義体制における政治家とマスメディアには基本的に価値観のタイルがあることを理解。							
第6回	民主主義			民主主義体制の長所と短所、民主主義体制以外の独裁体制についての理解。							
第7回	日本の集団主義文化と米国の個人主義文化			集団主義文化や個人主義文化は慣習であるが、日本の学校では、制度に集団主義文化が採用されています。日米の文化が政治に影響を与えていることを理解。							
第8回	18歳選挙権と参政権			日本国憲法第16条には請願権が上げられているが、これは議会や行政に対して一定の手続きはあるものの、国籍や年齢に関わりなく、意見を述べるができることへの理解。							
第9回	国際政治を理解するための基礎知識（1）			国際政治における兼六・条約・国際連合の関係を理解。							
第10回	パレスチナ・イスラエルの問題の歴史（1）			現在も武力衝突が続いている2勢力の歴史についての理解。							
第11回	パレスチナ・イスラエルの問題の歴史（2）			2勢力の歴史的背景の理解。							
第12回	官僚制理論（1）			官僚制理論の基礎の理解。M. ウェーバーの推定した組織化された社会の進行は今も続きます。その長所と短所について考察。							
第13回	官僚制理論（2）			同上。							
第14回	リーダーシップと水平的集団主義文化			戦後我が国は、垂直的集団主義文化から水平的集団主義文化にかわりつつあるといます。双方の長所と短所について考察。							
第15回	制度と慣習			M. ウェーバーの制度と文化の絡みの分析の理解。							
授業方法（レクチャー、グループワーク等）	なぜ高卒生から20代の若者が投票に行かないのか、行くためにはどうすればよいかを話し合う。										
評価方法及び評価基準	グループワーク（30%）と試験（70%）。										
課題等	できれば、新聞で、そうでなければ、テレビ・パソコン・スマホで政治に関する気になる記事を見たり、読んだりして下さい。										
事前事後学修	講義の前日は前述したことを必ず行って下さい。										
教材教科書参考書	・教科書；橋爪大三郎『政治の哲学』ちくま新書、880円。ISBN：978-4480071705										
留意点											

科目名	政治学（国際政治を含む）B		科目コード	W22002		単位数	2単位	対象	1年	開講	後期
			科目ナンバリング	W-TFSS1-03		時間	30時間	学年		学期	
区分	社会科学系科目 教職科目（中一種【社会】） 教職科目（高一種【公民】）	選択 選択必修 必修	担当者名	西東 克介				授業 形態	講義	単独	
授業の 概要等	<p>〔授業の主旨〕</p> <p>政治学Bは、政治学Aを基礎編とすれば、応用編とも言える。民主主義体制の国では、日本国憲法第12条に示されているように、国民の「不断的努力によって」自由及び権利を保持するのである。どの国にも差別の問題が存在するが、その改善には、長い年月がかかっている。我が国の平和も日本人やアジア人の多くの命が奪われた結果の後の努力により維持されているのである。私たちが努力する方向性をさぐるために、さらに学んでいきたい。</p> <p>〔ディプロマポリシー及びカリキュラムポリシーとの関連する事項〕</p> <p>ディプロマポリシーの1、2、3、4に関連し、カリキュラムポリシーの1-3、2-2、3-2、4-2に関連している</p>										
到達 目標	政治には、未知な部分が多い。それゆえ、未来を切り開く自分自身にああでもないこうでもないと常に問いかける自分自身を形成していった欲しい。										
授 業 計 画											
回	主 題			授 業 内 容 ・ 授 業 時 間 外 の 学 修						備 考	
第1回	本講義・展開方法・試験等について			出欠の取り方や感想文とレポートの違いについて理解。							
第2回	黒人差別の歴史的経過			米国黒人差別の歴史を植民地時代から19-20世紀までの経過を概説し、理解。							
第3回	公民権運動の動画鑑賞（1）			1950年代から1960年代までの公民権運動の動画の鑑賞。							
第4回	公民権運動の動画鑑賞（2）			同上の鑑賞と残りの45分でワークショップ。							
第5回	M. ウェーバーの政治家としての資質			リーダーは、リーダーの周囲との人間関係において成長し、周囲の人間もこれにより成長する。良き方向か、悪しき方向か、このことをリーダーと周囲の人間は常に配慮する必要があることを理解。							
第6回	銀内閣制・大統領制とリーダーシップ			議院内閣制と大統領制のリーダーシップの関係の理解。							
第7回	圧力団体・公益法人・NPO			圧力団体・公益法人・NPOを学び、調書・短所を理解。							
第8回	文民統制・自衛隊・集団安全保障			民主主義国家における文民統制の理解、日本国憲法第9条と個別的自衛権・集団的自衛権、双方の自衛権と国連の集団安全保障概念の理解。							
第9回	日本の政策過程			日本の政策過程について、1955年以来形成されてきたパターンの理解。							
第10回	NGOとNPOのミッション			(NGOを含む)NPOの企業や行政と異なる点は何か。また、そのミッションとは何か。							
第11回	NPOの機能と構造のパターン			NPOの機能と構造のパターンからその長所と短所を理解。							
第12回	ドイツの元首相メルケル			ドイツの元首相メルケルについて、その生い立ちから首相における業績の理解。							
第13回	ウクライナへのロシアの武力攻撃			2022年2月24日ロシアはウクライナに侵攻し、戦争を始めた。これまでの状況の理解。							
第14回	欧州における性労働者の権利			欧州における性労働者の主張を紹介し、理解。							
第15回	前回のテーマでワークショップとまとめ			ワークショップをメモして残す。まとめ。							
授業方法(レポート、プレゼン、ディベート等)	黒人差別がなぜ続き、なぜ解消できないのかをグループ討議する。										
評価方法及び評価基準	2度のワークショップの記録（50%）と試験（50%）。										
課題等	差別のニュース・記事にテレビのニュース・パソコン・スマホなどで日常的に関心を持つ。										
事前事後学修	前回学んだテーマについて、パソコン・スマホなどで関連する情報を読んでみよう。										
教材教科書参考書	・教科書：橋爪大三郎『政治の哲学』ちくま新書、880円。ISBN：978-4480071705										
留意点											

科目名	行政学		科目コード	W22020	単位数 時間	2単位 30時間	対象 学年	2年	開講 学期	後期
			科目ナンバリング	W-TFSS2-04						
区分	社会科学系列科目	選択	担当者名	西東 克介				授業 形態	講義	単独
授業の 概要等	〔授業の主旨〕 行政を組織という視点から学んでいきます。官僚制・行政国家化（組織化）・機能と構造・目的/手段のヒエラルキーなどの視点から学んでいきます。									
	〔ディプロマポリシー及びカリキュラムポリシーとの関連する事項〕 ディプロマポリシーの1、2、3、4に関連し、カリキュラムポリシーの1-3、2-2、3-2、4-2に関連している									
到達 目標	私たちの社会（政治と経済）は、進歩しようとするほど、組織化は進んでいきます。このことの長所と短所について考える習慣を身につけていきます。									
授 業 計 画										
回	主 題		授業内容・授業時間外の学修						備考	
第1回	本講義の概要・展開方法・試験など		学生同士の議論について説明。						仮のテーマで議論を行う。	
第2回	行政とは何か		三権分立・行政法学・PDCAサイクル等から説明。							
第3回	行政国家とは何か		行政国家を大きな政府・福祉国家・情報社会等から説明。						学生に行政国家の理解ができたか確認する。	
第4回	官僚制とは何か		近代官僚制を近代以前の官僚制・企業官僚制・その他の官僚制から分析。							
第5回	M. ウェーバーの官僚制		M. ウェーバーの支配の正当性と官僚制理論の説明。							
第6回	小さな政府と大きな政府		19・20世紀の酷寒論と冷戦構造化の制討論の説明。						行政国家論との関係の確認。	
第7回	我が国の行政組織（1）		内閣（政治組織）と行政各省庁（公務員組織）の原理の理解。							
第8回	我が国の行政組織（2）		行政各省庁の内部組織の原理とセクショナリズムの理解。						我が国行政組織の理解の確認。	
第9回	我が国の地方行政組織（1）		1945—1955年と1995—2000年までの地方行政組織の比較の理解。							
第10回	我が国の地方行政組織（2）		2000年以降の地方行政組織の理解。						我が国地方行政組織の理解の確認。	
第11回	ジェネラリストとスペシャリスト		日米の行政組織の違いの理解と英国の専門職としてのジェネラリストの理解。							
第12回	第一線職員のジレンマと行政文化		第一線職員のジレンマを我が国の行政文化（集団主義文化）により理解。							
第13回	行政統制と行政責任		行政国家的な現象の中で、ますます行政統制と行政責任の形式化が進んでいる。この原因は何かを理解。						政治の腐敗「も」その大きな原因となっている。	
第14回	アカウントビリティと評価		行政統制と行政責任を実質的なものにするために、この20年ほどで徐々に行政現場にアカウントビリティと評価の制度が採用されている。その長所と短所について理解。							
第15回	まとめ・行政国家とは何か		行政国家が理解できているかを確認。						行政国家化の理解。	
授業方法（ゼミなど、アクティブラーニング等）	なぜ、ガバナンスという言葉が生まれたのかを討議する。									
評価 方法 及び 評価 基準	試験90%と3回に1回の学生同士への取り組み10%で評価。									
課題等	授業に関連するニュースをできる限り、テレビかスマホかパソコンで見てください。									
事前事後 学修	組織と個人の関係について、日頃から考える習慣を身につけてほしい。									
教材 教科書 参考書	教科書土岐寛著『行政と地方自治の現在』北樹出版、2015年。ISBN：978-477304521									
留意点										

科目名	ローカル・ガバナンス		科目コード	W33028	単位数	2単位	対象	2年	開講	後期
			科目ナンバリング	W-TFSS2-05	時間	30時間	学年		学期	
区分	社会科学系列科目	選択	担当者名	西東 克介				授業	講義	単独
授業の概要等	<p>〔授業の主旨〕 本講義は、ガバナンスという比較的新しい概念を重視する講義です。簡単に言うと、政治や行政の政策・施策は他人事ではないということを学ぶことが中心になります。それゆえ、私の講義を聴いたり、新聞記事を読んだ後、学生同士で話し合ったりすることもしばしばあります。</p> <p>〔ディプロマポリシー及びカリキュラムポリシーとの関連する事項〕 ディプロマポリシーの1、2、3、4に関連し、カリキュラムポリシーの1-3、2-2、3-2、4-2に関連している</p>									
到達目標	基本的な講義内容は毎回説明しますが、個々の事柄については、自分自身で考えたり、周囲の学生の意見を聞きながら、自分自身の考え方を形成していくことを学んでいきます。									
授 業 計 画										
回	主 題			授 業 内 容 ・ 授 業 時 間 外 の 学 修					備 考	
第1回	自律を個人・集団・組織から考える			自律について、個人・集団・組織から考えます。					終了20分前からグループで話し合います。	
第2回	自立を個人・集団・組織から考える			自立について、個人・集団・組織から考えます。					終了20分前からグループで話し合います。	
第3回	我が国集団主義文化の長所と短所を考える			我が国集団主義文化の長所と短所を小・中・高の経験から考えます。					終了20分前からグループで話し合います。	
第4回	地方政府の自立を考える			我が国の場合、歴史的事情と連邦制でないことから、地方政府の自立に困難な面があります。					終了20分前からグループで話し合います。	
第5回	governmentとgovernanceの違いの理解			組織を静態（形式）的ではなく、胴体（実質）的な視点から、2000年以降の我が国地方自治体を考察。新聞記事を読みます。						
第6回	governanceとしての米国地方政府の理解			歴史的な視点と動的な視点から米国地方政府を分析し、将来の我が国地方政府について考えます。						
第7回	A. トクヴィルの自治の精神を理解			およそ180年前、仏人A. トクヴィルは米国に渡り、米国を分析した。その基本的理解に努めて下さい。						
第8回	米国の個人主義文化の理解			米国の連邦制と教育と宗教（キリスト教）による個人主義文化の理解に努めて下さい。						
第9回	合理化とグローバルリズム・ローカルリズム			これらが世界と我が国にどのような影響を与えてきたのかの理解に努めて下さい。						
第10回	専門職と能力についての基礎的理解			我が国と米国の専門職について考えます。						
第11回	専門職と専+17:24門職団体について考える			専門職と団体の関係について、その長所と短所について考えます。						
第12回	専門職・専門職団体・一般的組織について考える			専門職は、社会（一般的組織）を改善していくことが可能か。						
第13回	ジェネラリストとスペシャリストと行政組織・企業組織の関係を考える			英国は国家レベルの行政でジェネラリストを専門職として数年前から採用。なぜか。我が国への影響はないのでしょうか。						
第14回	ローカルガバナンスの未来Ⅰ			以上の議論から、ローカルガバナンスの未来を考えます。						
第15回	ローカルガバナンスの未来Ⅱ			以上の議論から、ローカルガバナンスの将来を考えます。						
授業方法(レクチャー、グループワーク等)	なぜ、自治体にとってガバナンスという考え方が必要なのかについて討議する。									
評価方法及び評価基準	講義の半ばほどで、1度レポートを書いてもらいます（30点）。試験が70点。									
課題等	教科書：藤井浩司・中村祐司（編著）『地方自治の基礎』一藝社（2017）、2400円。ISBN：978-4863591264									
事前事後学修	特に指定しない。									
教材教科書参考書	特に指定しない。									
留意点										

科目名	経済学（国際経済を含む）A		科目コード	W22005	単位数	2単位	対象	2年	開講	前期	
			科目ナンバリング	W-TFSS2-06	時間	30時間	学年		学期		
区分	社会科学系列科目 教職科目（中一種【社会】） 教職科目（高一種【公民】）	選択 選択必修 必修	担当者名	福田 進治				授業 形態	講義	単独	
授業の 概要等	<p>〔授業の主旨〕</p> <p>近代以降のヨーロッパ経済の歴史と著名な経済学者（アダム・スミス、リカード、マルクス、マーシャル、ケインズ）の業績を学びながら、経済学の基本的な考え方を身に付けます。</p> <p>〔ディプロマポリシー及びカリキュラムポリシーとの関連する事項〕</p> <p>ディプロマポリシーの1、2、3、4に関連し、カリキュラムポリシーの1-3、2-2、3-2、4-2に関連している</p>										
到達 目標	経済学の歴史を学び、経済学の基本的な考え方を身に付けることを目指します。										
授 業 計 画											
回	主 題		授 業 内 容 ・ 授 業 時 間 外 の 学 修						備 考		
第1回	序 論		授業の目的、概要、方法について説明します。								
第2回	重商主義の時代		アダム・スミスの時代と生涯について学びます。								
第3回	市場メカニズム		アダム・スミスの価格理論と成長理論について学びます。								
第4回	小さな政府		アダム・スミスの経済政策と「小さな政府」について学びます。								
第5回	産業革命の時代		リカードの時代と生涯について学びます。								
第6回	国際貿易の原理		リカードの比較生産費説について学びます。								
第7回	階級闘争の時代		マルクスの時代と生涯について学びます。								
第8回	資本主義の構造		マルクスの資本主義経済の構造的分析について学びます。								
第9回	資本主義の歴史		マルクスの資本主義経済の歴史的分析について学びます。								
第10回	ヴィクトリア時代		マーシャルの時代と生涯について学びます。								
第11回	市場経済の理論		マーシャルの需給均衡理論について学びます。								
第12回	大恐慌の時代		ケインズの時代と生涯について学びます。								
第13回	マクロ経済の分析		ケインズの雇用理論と貨幣理論について学びます。								
第14回	福祉国家の形成		ケインズの経済政策と福祉国家について学びます。								
第15回	まとめ		授業の内容を振り返り、経済学の歴史について考えます。								
授業方法（レクチャー、グループワーク等）	授業中のノート取り										
評価方法及び評価基準	<p>1) 平常評価（50%）：毎回の授業に際して、コメント付き出席カードを提出してもらいます。各回の授業の出席状況、受講態度と学習意欲、授業の理解度を評価します。</p> <p>2) 期末評価（50%）：期末試験を実施します。授業全体の理解度、現代社会に関する問題意識、自分の考えを文章によって論理的に説明する能力を評価します。</p>										
課題等	毎回の授業のコメントに対して、必要に応じて回答します。期末試験の答案については、希望者に返却します。										
事前事後学修	日頃から、テレビ・インターネット等で、政治・経済・社会のニュースを見る習慣をつけて下さい。授業の前に、参考書等を読んで下さい。授業の後に、ノートを読み返しながら、授業内容を振り返って下さい。1日あたり30分を目安とします。										
教材教科書参考書	（参考書）八木紀一郎『経済思想』（第2版）日本経済新聞出版社、2011年、ISBN：9784532112431 ※品切中のため新品を入手することはできません。										
留意点											

科目名	経済学（国際経済を含む）B		科目コード	W22006	単位数	2単位	対象	2年	開講	後期
			科目ナンバリング	W-TFSS2-07	時間	30時間	学年		学期	
区分	社会科学系列科目 教職科目(中一種【社会】) 教職科目(高一種【公民】)	選択 選択必修 必修	担当者名	福田 進治				授業 形態	講義	単独
授業の 概要等	<p>〔授業の主旨〕 現代の資本主義経済の構造と分析方法、マクロ経済政策の必要性とその効果を学びながら、今日の日本経済をめぐる諸問題について考えます。 〔ディプロマポリシー及びカリキュラムポリシーとの関連する事項〕 ディプロマポリシーの1、2、3、4に関連し、カリキュラムポリシーの1-3、2-2、3-2、4-2に関連している</p>									
到達 目標	現代経済の基本的メカニズムを学び、日本経済の現状と課題を理解することを目指します。									
授 業 計 画										
回	主 題			授 業 内 容 ・ 授 業 時 間 外 の 学 修					備 考	
第1回	序 論			授業の目的、概要、方法について説明します。						
第2回	日本経済の動き			戦後の日本経済の動きと経済政策の考え方について学びます。						
第3回	マクロ経済分析			現代経済の構造と理論的把握の方法について学びます。						
第4回	失業の原因			失業の定義、概念、原因について学びます。						
第5回	総生産の決定			総生産（GDP）の定義、総生産の決定の原理について学びます。						
第6回	財政政策の効果			政府の役割と財政政策の効果について学びます。						
第7回	財政赤字と失業			財政政策の運用と限界について学びます。						
第8回	貿易の効果			貿易の国内経済に対する影響と関税の問題について学びます。						
第9回	為替レート			為替レートの決定と経済に対する影響について学びます。						
第10回	金融市場の役割			金融市場の役割と投資の決定の原理について学びます。						
第11回	利子率の決定			利子率の決定と資産選択の原理について学びます。						
第12回	金融政策の効果			中央銀行の役割と金融政策の効果について学びます。						
第13回	物価の変動			物価変動の原因と影響、金融政策の限界について学びます。						
第14回	経済成長と構造改革			経済成長の戦略を学び、今後の日本経済を展望します。						
第15回	まとめ			授業の内容を振り返り、日本経済について考えます。						
授業方法(レクチャー、演習、ケース等)	授業中のノート取り									
評価方法及び評価基準	<p>1) 平常評価（50%）：毎回の授業に際して、コメント付き出席カードを提出してもらいます。各回の授業の出席状況、受講態度と学習意欲、授業の理解度を評価します。 2) 期末評価（50%）：期末試験を実施します。授業全体の理解度、現代社会に関する問題意識、自分の考えを文章によって論理的に説明する能力を評価します。</p>									
課題等	毎回の授業のコメントに対して、必要に応じて回答します。期末試験の答案については、希望者に返却します。									
事前事後学修	日頃から、テレビ・インターネット等で、政治・経済・社会のニュースを見る習慣をつけて下さい。授業の前に、参考書等を読んで下さい。授業の後に、ノートを読み返しながら、授業内容を振り返って下さい。1日あたり30分を目安とします。									
教材教科書参考書	(参考書) 塚崎公義『一番わかりやすい日本経済入門』河出書房新社、2018年、ISBN: 9784309248417									
留意点										

科目名	法学（国際法を含む）A		科目コード	W22007	単位数 時間	2単位	対象 学年	1年	開講 学期	前期
			科目ナンバリング	W-TFSS1-08		30時間				
区分	社会科学系科目 教職科目(中一種【社会】) 教職科目(高一種【公民】)	選択 選択必修 必修	担当者名	大野 拓哉			授業 形態	講義	単独	
授業の 概要等	【授業の主旨】 本講では、「法」という社会のルール（社会規範）について、他の社会規範とも比較しつつ、その特色や存在形態などに関する概括的な理解の形成をはかる。									
	〔ディプロマポリシー及びカリキュラムポリシーとの関連する事項〕 ディプロマポリシーの1、2、3、4に関連し、カリキュラムポリシーの1-3、2-2、3-2、4-2に関連している									
到達 目標	自立した一人として「法」と向き合い、「法」を用いていける基礎を築くことはもとより、将来、援助者として不利な立場の人々に関わる際に、それらの人々の権利や利益を適切に擁護し得る基礎としての知識や理解の形成を目指す。									
授 業 計 画										
回	主 題			授 業 内 容				備 考		
第1回	「法」とは何か①			社会生活における「法」						
第2回	「法」とは何か②			「法」の存在形態						
第3回	「法」とは何か③			「法」は誰がつくるのか				ディスカッション		
第4回	「法」の種類①			民事砲と刑事法						
第5回	「法」の種類②			公法と私法						
第6回	「法」の種類③			実体法と手続法						
第7回	「法」の種類④			国家法と自治法						
第8回	「法」の種類⑤			市民法と社会法				ディスカッション		
第9回	「法」の実現①			「法」の遵守						
第10回	「法」の実現③			「法」と裁判						
第11回	「法」の実現③			「法」と法律家						
第12回	「法」の実現④			「法」の適用						
第13回	「法」の実現⑤			「法」の解釈						
第14回	「法」の実現⑥			「法」解釈の科学性				ディスカッション		
第15回	総括			まとめと振り返り				反転学習		
授業方法(レクチャー、グループワーク等)	グループワーク									
評価方法及び評価基準	試験（論述式）のみを評価の対象とする。									
課題等	特になし									
事前事後学修	特に事後学修に関して、指示された文献や条文の参照を怠らないこと 目安：毎週3時間									
教材教科書参考書	五十嵐清『法学入門[第4版 新装版]』日本評論社 ISBN:978-4-535-52318-0									
留意点	法律の条文等をその場で参考出来るよう、六法類などを常に持参すること。									

科目名	法学（国際法を含む）B		科目コード	W22008	単位数	2単位	対象	1年	開講	後期
			科目ナンバリング	W-TFSS1-09	時間	30時間	学年		学期	
区分	社会科学系列科目 教職科目（中一種【社会】） 教職科目（高一種【公民】）	選択 選択必修 必修	担当者名	大野 拓哉			授業	形態	講義	単独
授業の概要等	<p>【授業の主旨】</p> <p>「法学A」で学んだことを踏まえて、「法」による社会紛争の解決はどのようなメカニズムによるのか、「法」はどのように適用されているのか、「法」の解釈とはどのような行為であるのか等の理解を深める。</p> <p>【ディプロマポリシー及びカリキュラムポリシーとの関連する事項】</p> <p>ディプロマポリシーの1、2、3、4に関連し、カリキュラムポリシーの1-3、2-2、3-2、4-2に関連している</p>									
到達目標	「法学A」同様に、将来、援助者として「権利擁護」を行う為の基礎的な力を養成することを目指す。									
授 業 計 画										
回	主 題			授 業 内 容				備 考		
第1回	「法」と社会規範①			「法」と道徳						
第2回	「法」と社会規範②			「法」と習俗				ディスカッション		
第3回	生活局面と「法」①			財産関係と「法」①～契約～						
第4回	生活局面と「法」②			財産関係と「法」②～不法行為～				ディスカッション		
第5回	生活局面と「法」③			家庭生活と「法」①～婚姻～						
第6回	生活局面と「法」④			家庭生活と「法」②～親子～						
第7回	生活局面と「法」⑤			家庭生活と「法」③～相続～				ディスカッション		
第8回	生活局面と「法」⑥			犯罪と「法」①～犯罪とは？～						
第9回	生活局面と「法」⑦			犯罪と「法」②～刑罰とは？～				ディスカッション		
第10回	生活局面と「法」⑧			基本的人権				ディスカッション		
第11回	生活局面と「法」⑨			立法権				ディスカッション		
第12回	生活局面と「法」⑩			行政権				ディスカッション		
第13回	生活局面と「法」⑪			司法権				ディスカッション		
第14回	生活局面と「法」⑫			地方自治				ディスカッション		
第15回	総括			まとめと振り返り				反転学習		
授業方法（レクチャー、グループワーク等）	グループワーク									
評価方法及び評価基準	試験（論述式）のみを評価の対象とする。									
課題等	特になし									
事前事後学修	特に事後学修に関して、指示された文献や条文の参照を怠らないこと 目安：毎週3時間									
教材教科書参考書	五十嵐清『法学入門[第4版 新装版]』日本評論社 ISBN:978-4-535-52318-0									
留意点	法律の条文等をその場で参照できるように六法類などを常に持参すること。									

科目名	社会学A		科目コード	W22009	単位数 時間	2単位	対象 学年	1年	開講 学期	前期
			科目ナンバリング	W-TFSS1-10		30時間				
区分	社会科学系列科目 教職科目(中一種【社会】) 教職科目(高一種【公民】)	選択 選択必修 必修	担当者名	小山内 詩織			授業 形態	講義	単独	
授業の概要等	<p>【授業の主旨】</p> <p>社会学の基礎的な知識、概念を学ぶことを通じて、これまで知らなかった人間関係・社会現象のメカニズムや意味、社会や人間に対する幅広い見方を学ぶ。扱うテーマは、自己、家族、ジェンダー、社会システム等。</p> <p>〔ディプロマポリシー及びカリキュラムポリシーとの関連する事項〕</p> <p>ディプロマポリシーの1、2、3、4に関連し、カリキュラムポリシーの1-3、2-2、3-2、4-1、4-2に関連している</p>									
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> 社会学の基礎的な知識、概念を身につける。 さまざまな水準の社会現象を、抽象的に理解できるようになる。 現実起こっている社会現象を、社会学の概念を用いて理解できるようになる。 									
授 業 計 画										
回	主 題			授 業 内 容 ・ 授 業 時 間 外 の 学 修					備 考	
第1回	オリエンテーション・社会学とは何か			授業の概要を理解するとともに、社会学とはなにかについて理						
第2回	自己と他者（1）			自己と他者の関係について理解する。						
第3回	自己と他者（2）			社会化について理解する。						
第4回	自己と他者（3）			相互行為について理解する。						
第5回	家族とジェンダー（1）			家族に関する基本的な概念について理解する。						
第6回	家族とジェンダー（2）			ジェンダーと近代家族について理解する。						
第7回	家族とジェンダー（3）			家族の変動について理解する。						
第8回	健康（1）			自殺、依存症について理解する。						
第9回	健康（2）			慢性疾患、スティグマについて理解する。						
第10回	労働（1）			労働市場の性質とルールについて理解する。						
第11回	労働（2）			戦後日本における労働をめぐる取り組みについて理解する。						
第12回	世代（1）			ライフサイクル、ライフコースについて理解する。						
第13回	世代（2）			個人化と社会問題について理解する。						
第14回	社会システム（1）			社会システムとは何かについて理解する。						
第15回	社会システム（2）			社会階層システムについて理解する。						
授業方法 (オンデマンド、アクティブ ラーニング等)	第2回から第15回は、グループワークで各回で扱うトピックについてディスカッションし、各グループの代表者がそのディスカッション内容を全体に共有する。									
評価 方法 及び 評価 基準	学期末のレポート、授業への参加態度、ショートプレゼンテーションによって評価を行います（期末レポート：60点、授業参加態度：20点、ショートプレゼンテーション：20点）。期末レポートでは、社会福祉士にとっての社会学とはなにか、基本的な概念の理解、およびそれらの概念を使用して社会現象を応用的に捉え論理的に自身の考えを述べられているか評価します。なお、15回中5回以上欠席すると評価対象外となります。									
課題等	期末レポート									
事前事後 学修	使用する教科書を読んで、理解を深めてください。準備学習時間の目安：週当たり3時間程度。									
教材 教科書 参考書	『最新 社会福祉士養成講座 精神保健福祉士養成講座 第3巻 社会学と社会システム』中央法規 (ISBN: 978-4-8058-8233-7)									
留意点	15回の全ての授業に出席することで社会学について網羅的に学ぶことが出来ます。できるだけ全ての授業に出席するよう努めてください。									

科目名	社会学B		科目コード	W22010	単位数	2単位	対象 学年	1年	開講 学期	後期
			科目ナンバリング	W-TFSS1-11	時間	30時間				
区分	社会科学系科目 教職科目(中一種【社会】) 教職科目(高一種【公民】)	選択 選択必修 必修	担当者名	小山内 詩織			授業 形態	講義	単独	
授業の 概要等	<p>〔授業の主旨〕</p> <p>社会学の基礎的な知識、概念を学ぶことを通じて、これまで知らなかった人間関係・社会現象のメカニズムや意味、社会や人間に対する幅広い見方を学ぶ。扱うテーマは、組織・集団、人口、グローバリゼーション、社会変動、地域、社会的格差等。</p> <p>〔ディプロマポリシー及びカリキュラムポリシーとの関連する事項〕</p> <p>ディプロマポリシーの1、2、3、4に関連し、カリキュラムポリシーの1-3、2-2、3-2、4-1、4-2に関連している</p>									
到達 目標	<ul style="list-style-type: none"> 社会学の基礎的な知識、概念を身につける。 さまざまな水準の社会現象を、抽象的に理解できるようになる。 現実に行っている社会現象を、社会学の概念を用いて理解できるようになる。 									
授 業 計 画										
回	主 題		授 業 内 容 ・ 授 業 時 間 外 の 学 修						備 考	
第1回	組織と集団（1）		集団・組織の概念と分類について理解する							
第2回	組織と集団（2）		非営利組織について理解する							
第3回	人口（1）		高齢化、少子化について理解する							
第4回	人口（2）		人口移動について理解する							
第5回	グローバリゼーション		グローバリゼーションと社会について理解する							
第6回	社会変動（1）		前近代社会から近代社会への流れを理解する							
第7回	社会変動（2）		産業化、情報社会化、消費社会化について理解する							
第8回	地域（1）		コミュニティとアソシエーションについて理解する							
第9回	地域（2）		限界集落、ソーシャルキャピタルについて理解する							
第10回	環境		環境問題と持続可能性について理解する							
第11回	社会的格差（1）		格差と貧困について理解する							
第12回	社会的格差（2）		雇用格差、教育格差、健康格差について理解する							
第13回	社会政策と社会問題		産業社会と社会政策について理解する							
第14回	差別と偏見		社会的排除、偏見、差別について理解する							
第15回	災害と復興		災害と社会について理解する							
授業方法 (オンデマンド・アクティブ ラーニング等)	第1回から第15回は、グループワークで各回で扱うトピックについてディスカッションし、各グループの代表者がそのディスカッション内容を全体に共有する。									
評価 方法 及び 評価 基準	学期末のレポート、授業への参加態度、ショートプレゼンテーションによって評価を行います（期末レポート：60点、授業参加態度：20点、ショートプレゼンテーション：20点）。期末レポートでは、社会福祉士としての社会学とはなにか、基本的な概念の理解、およびそれらの概念を使用して社会現象を応用的に捉え論理的に自身の考えを述べられているか評価します。なお、15回中5回以上欠席すると評価対象外となります。									
課題等	期末レポート									
事前事後 学修	使用する教科書を読んで、理解を深めてください。準備学習時間の目安：週当たり3時間程度。									
教材 教科書 参考書	『最新 社会福祉士養成講座 精神保健福祉士養成講座 第3巻 社会学と社会システム』中央法規 (ISBN: 978-4-8058-8233-7)									
留意点	15回の全ての授業に出席することで社会学について網羅的に学ぶことが出来ます。できるだけ全ての授業に出席するよう努めてください。									

科目名	政治思想史A		科目コード	W22011	単位数	2単位	対象 学年	2年	開講 学期	前期
			科目ナンバリング	W-TFSS2-12	時間	30時間				
区分	社会科学系科目 教職科目(高一種【公民】)	選択 必修	担当者名	村松 恵二			授業 形態	講義	単独	
授業の 概要等	<p>〔キーワード：自由主義 民主主義 保守主義〕 政治思想史の講義では、政治思想の歴史をたどりながら、政治理念・政治思想(〇〇主義)に関して、基礎的知識を身につけ、政治的なものの考え方の特徴について学びます。A・Bあわせて、福祉国家を支える政治思想の形成過程が理解できるように学びます。政治思想史Aでは、マキアヴェリやバークなどから、政治というもののもつ独特の論理について学びます。また、ホッブズ、ロック、ルソーなどから、現在の先進諸国の政治原理である自由民主主義を構成する要素(個人主義と自由主義、民主主義と平等)について学びます。</p>									
	<p>〔ディプロマポリシー及びカリキュラムポリシーとの関連する事項〕 ディプロマポリシーの1, 2, 3, 4および、カリキュラムポリシーの1-3, 2-2, 3-2, 4-2に関連している。</p>									
到達 目標	<p>この講義では、福祉を考える上で、ますます重要になっている政治について、とりわけ政治理念、政治思想という観点から、学ぶことが目標です。政治思想史Aでは、講義全体を通じて、自由民主主義を構成する二つの要素(自由主義と民主主義)の区別と関連を理解することが到達目標です。個人主義、自由主義、民主主義、平等などの概念を正確に把握し、使いこなせるようになることです。</p>									
授 業 計 画										
回	主 題		授 業 内 容 (授 業 時 間 外 の 学 修 を 含 む)						備 考	
第1回	ガイダンス		講義の目標や他の授業科目との関係、聴講の際の注意事項など							
第2回	マキアヴェリの政治思想		マキアヴェリの政治思想、とくに政治と道徳の関係について							
第3回	ホッブズの政治思想(1)		ホッブズの社会契約論の特徴、生存権の重要性について							
第4回	ホッブズの政治思想(2)		主権の絶対性をめぐる理論について							
第5回	ロックの政治思想(1)		ロックの略歴、彼の政治思想と名誉革命との関係について							
第6回	ロックの政治思想(2)		所有権を正当化する理論を中心に							
第7回	ロックの政治思想(3)		信教の自由をめぐる理論について、レポート課題について説明							
第8回	ルソーの政治思想(1)		ルソーの略歴、18世紀の特徴などについて							
第9回	ルソーの政治思想(2)		ルソーの現状批判の諸理論について							
第10回	ルソーの政治思想(3)		ルソー社会契約論の特徴、自治の理論について							
第11回	ヒュームの政治思想		社会契約論批判について、功利主義的説明の方法について							
第12回	バークの政治思想(1)		バークの略歴、フランス革命の与えた衝撃について							
第13回	バークの政治思想(2)		「フランス革命についての考察」を中心に保守主義原理について							
第14回	バークの政治思想(3)		保守主義原理の展開について							
第15回	まとめ		講義全体を振り返りつつ重要な点を再確認する、 期末テスト実施							
授業方法(レジュメ、プリント、動画、オンライン等)	特になし									
評価 方法 及び 評価 基準	<p>期末試験、レポート、学習状況を総合的に評価します。政治思想の基本的知識を問う問題を出します。達意の日本語になっているかどうか重要な評価要素です。レポート提出等も含め、しっかり勉強してもらい、確実に単位を確保できる方法を考えます。試験40点、レポート評価点30点、平常点評価30点。</p>									
課題等	レポートは添削して返却します。とにかく、達意の日本語が書けるように普段から努力してください。									
事前事後学修	講義後にレジュメをしっかり復讐すること。									
教材 教科書 参考書	テキストは使用しません。講義の際に、レジュメを配付します。									
留意点	社会や政治のあり方に問題意識をもって(新聞やテレビニュースを見ながら)聴講してください。									

科目名	政治思想史B		科目コード	W22012	単位数 時間	2単位	対象 学年	2年	開講 学期	後期
			科目ナンバリング	W-TFSS2-13		30時間				
区分	社会科学系科目 教職科目(高一種【公民】)	選択 必修	担当者名	村松 恵二			授業 形態	講義	単独	
授業の 概要等	[キーワード:自由民主主義 社会主義 福祉国家] 政治思想史の講義では、政治思想の歴史をたどりながら、政治理念・政治思想(〇〇主義)に関して、基礎的知識を身につけ、政治的なものの考え方の特徴について学びます。A・Bあわせて、福祉国家を支える政治思想の形成過程が理解できるように学びます。政治思想史Bでは、J・S・ミルやマルクス、スペンサー、グリーンなどの思想家を取りあげて、19世紀以降に展開される、自由民主主義、社会主義、さらに福祉国家を支える政治思想について学びながら、自由民主主義と福祉国家の将来を考えます。									
	[ディプロマポリシー及びカリキュラムポリシーとの関連する事項] ディプロマポリシーの1,2,3,4および、カリキュラムポリシーの1-3,2-2,3-2,4-2に関連している。									
到達 目標	この講義では、福祉を考える上でますます重要になっている政治について、とりわけ政治理念、政治思想という観点から、学ぶことが目標です。政治思想史Bでは、講義を通じて、自由主義と社会主義の対抗関係のなかで福祉国家が形成されてくる過程を理解してもらいます。福祉政策をめぐる現在の政策的対立である、新自由主義と社会民主主義の政策体系について、理解することが到達目標です。									
授 業 計 画										
回	主 題		授 業 内 容 (授 業 時 間 外 の 学 修 を 含 む)						備 考	
第1回	ベンサム——自由主義の民主主義化		ガイダンスの後、功利主義の理論と参政権の拡大の理論について							
第2回	J・S・ミルの自由論(1)		ベンサム主義の修正について							
第3回	J・S・ミルの自由論(2)		消極的自由と積極的自由(道徳的自由)について							
第4回	J・S・ミルの自由論(3)		大衆民主政と多数派の専制について							
第5回	社会主義の政治思想(1)		初期マルクスの政治思想							
第6回	社会主義の政治思想(2)		エンゲルスの政治思想について							
第7回	社会主義の政治思想(3)		マルクスの資本主義経済分析、「脱成長コミュニズム」論について							
第8回	スペンサーの社会進化論		資本主義経済への信頼と自由放任論							
第9回	社会ダーウィニズムの思想(1)		帝国主義政策と人種論を正当化した理論について							
第10回	社会ダーウィニズムの思想(2)		帝国主義批判の理論							
第11回	グリーン理想主義政治思想(1)		19世紀後半のイギリスと自由主義の修正について							
第12回	グリーン理想主義政治思想(2)		契約の自由の修正および国家の役割の変化と社会政策について							
第13回	ホブハウスの福祉国家思想		現代福祉国家を準備したホブハウスの政治思想について							
第14回	新自由主義と社会民主主義		福祉政策をめぐる二つの潮流の対立について							
第15回	まとめ		講義を振り返りつつ重要な点を再確認する、期末テスト実施							
授業方法(レポート、プレゼンテーション等)	特になし									
評価方法及び評価基準	期末試験、レポート、学習状況を総合的に評価します。政治思想の基本的知識を問う問題を出します。達意の日本語になっているかどうか重要な評価要素です。レポート提出等も含め、しっかり勉強してもらい、確実に単位を確保できる方法を考えます。試験40点、レポート評価点30点、平常点評価30点									
課題等	レポートは添削して返却します。とにかく、達意の日本語が書けるように普段から努力してください。									
事前事後学修	講義後にレジュメをしっかり復讐すること									
教材教科書参考書	テキストは使用しません。講義の際にレジュメを配付します。									
留意点	社会や政治のあり方に問題意識をもって(新聞やテレビニュースを見ながら)聴講してください。									

科目名	社会科学特講A		科目コード	W22013	単位数 時間	2単位	対象 学年	3年	開講 学期	前期
			科目ナンバリング	W-TFSS2-14		30時間				
区分	社会科学系列科目 教職科目(高一種【地歴】)	選択 必修	担当者名	大野 拓哉				授業 形態	講義	単独
授業の 概要等	〔授業の主旨〕 社会福祉法を学ぶ									
	〔ディプロマポリシー及びカリキュラムポリシーとの関連する事項〕 ディプロマポリシー-1, 2, 3, 4に関連し、カリキュラムポリシー-1-3, 2-2, 3-2, 4-2に関連している。									
到達 目標	将来、社会福祉従事者になった際に、消極的・受動的に法や制度に振り回されることがないように、あるいは、反対に、利用者の利益のために法や制度を積極的・能動的に用いることが出来るように、確かな知識を身につけることを目指す。									
授 業 計 画										
回	主 題		授 業 内 容 ・ 授 業 時 間 外 の 学 修						備 考	
第1回	社会福祉の憲法上の根拠と関連諸法律		日本国憲法25条をはじめ、憲法上の根拠を学ぶほか、福祉三法、福祉六法など福祉関係諸法律を概観する							
第2回	法令解釈の基礎		法令の読み方に資するべく、目的規定など規定の種類や法文特有の言葉遣い等を修得する						ディスカッション	
第3回	「社会福祉法」前史		戦前・戦後の立法動向						ディスカッション	
第4回	社会福祉法(1)		総則							
第5回	社会福祉法(2)		福祉に関する事務所							
第6回	社会福祉法(3)		社会福祉法人(1) 社会福祉法人の誕生							
第7回	社会福祉法(4)		社会福祉法人(2) 通則(経営の原則、公益事業と収益事業、所轄庁)							
第8回	社会福祉法(5)		社会福祉法人(3) 組織および機関							
第9回	社会福祉法(6)		社会福祉法人(4) 解散、合併						ディスカッション	
第10回	社会福祉法(7)		社会福祉事業 経営の準則と監督							
第11回	社会福祉法(8)		福祉サービスの適切な利用 日常生活自立支援事業と成年後見制度						ディスカッション	
第12回	社会福祉法(9)		地域福祉の推進(1) 包括的支援体制および重層的支援体制の整備							
第13回	社会福祉法(10)		地域福祉の推進(2) 地域福祉計画および社会福祉・医療等に関する諸計画							
第14回	社会福祉法(11)		地域福祉の推進(3) 社会福祉協議会および共同募金						ディスカッション	
第15回	社会福祉法(12)		社会福祉連携推進法人						ディスカッション	
授業方法(ゼミナール、7対1ア・ラウンド等)	グループワーク									
評価方法及び評価基準	短答式の客観試験のみ									
課題等	随時伝える									
事前事後学修	事前よりも事後学習により多く取り組むこと(分からないこと、不明なことは早めに質問等を行い、解消すること)									
教材教科書参考書	特に指定しない									
留意点	福祉関係の六法を持参し、常に条文等を参照できるように備えること									

科目名	社会科学特講B		科目コード	W22014	単位数 時間	2単位	対象 学年	3年	開講 学期	後期
			科目ナンバリング	W-TFSS2-15		30時間				
区分	社会科学系列科目 教職科目(高一種【地歴】)	選択 必修	担当者名	大野 拓哉			授業 形態	講義	単独	
授業の 概要等	〔授業の主旨〕									
	社会福祉および教育に関わる法を学ぶ 〔ディプロマポリシー及びカリキュラムポリシーとの関連する事項〕 ディプロマポリシー1, 2, 3, 4に関連し、カリキュラムポリシー1-3, 2-2, 3-2, 4-2に関連している。									
到達 目標	将来、社会福祉従事者になったとき、あるいは、教員になったとき、消極的・受動的に法や制度に振り回されることがないように、それどころか、むしろ、利用者や児童・生徒等の利益のために法や制度を積極的・能動的に用いることが出来るように、確かな知識を身につけることを目指す。									
授 業 計 画										
回	主 題			授業内容・授業時間外の学修				備考		
第1回	「法化社会」とはいかなる社会か			法の可能性と限界				ディスカッション		
第2回	私法の基本原則			所有権絶対の原則、契約自由の原則、過失責任の原則				ディスカッション		
第3回	契約に基づく法律関係(1)			社会福祉にとっての契約						
第4回	契約に基づく法律関係(2)			契約の成立と効力						
第5回	契約に基づく法律関係(3)			典型契約/非典型契約 財産移転型の契約①						
第6回	契約に基づく法律関係(4)			財産移転型の契約② 役務提供型の契約				ディスカッション		
第7回	契約に基づかない法律関係(1)			不法行為(1) ～不法行為の成立要件と効果						
第8回	契約に基づかない法律関係(2)			不法行為(2) ～特殊の不法行為(使用者責任、土地工作物責任等)				ディスカッション		
第9回	社会福祉と法的責任			介護事故と責任						
第10回	社会福祉と法的責任			ボランティア活動と法的責任				ディスカッション		
第11回	学校事故と法(1)			「学校事故」に適用される法制度						
第12回	学校事故と法(2)			学校事故損害賠償請求の要件と効果						
第13回	学校事故と法(3)			学校事故の類型と安全保護義務						
第14回	学校事故と法(4)			学校教育活動と安全保護義務				ディスカッション		
第15回	総括			まとめと振り返り				ディスカッション		
授業方法(グループワーク、アクティブラーニング等)	グループワーク									
評価方法及び評価基準	短答式の客観試験のみ									
課題等	随時伝える									
事前事後学修	事前よりも事後学習により多く取り組むこと(分からないこと、不明なことは早めに質問等を行い、解消すること)									
教材教科書参考書	特に指定しない									
留意点	実際の条文を常に参照できるように備えること									

科目名	宗教学（キリスト教）A		科目コード	W23001	単位数 時間	2単位 30時間	対象 学年	1年	開講 学期	前期
区分	総合科学系列科目 教職科目（中一種【社会】） 教職科目（高一種【公民】）	必修 必修	担当者名	石垣 雅子			授業 形態	講義	単独	
授業の 概要等	<p>〔授業の主旨〕</p> <p>キリスト教主義学校に学ぶ者として、キリスト教の基礎知識や宗教全般に対する必要な知識を得ることを第一の目的とする。また、そのことを通して自分自身やこの社会について考察し、社会福祉を学ぶために一助としたい。</p> <p>〔ディプロマポリシー及びカリキュラムポリシーとの関連する事項〕</p> <p>ディプロマポリシーの1, 2, 3, 4に関連し、カリキュラムポリシーの1-2, 2-2, 3-1, 4-2に関連している。</p>									
到達 目標	<p>1. キリスト教や宗教についての基本的知識を得る。</p> <p>2. キリスト教的アプローチという観点を得る。</p> <p>3. 聖書が語るメッセージから自己や他者の望ましいあり方を考える。</p>									
授 業 計 画										
回	主 題		授 業 内 容 ・ 授 業 時 間 外 の 学 修					備 考		
第1回	オリエンテーション		キリスト教や聖書の基礎知識、宗教とは何か（カルト含む）							
第2回	弘前学院の歴史		弘前とキリスト教、弘前学院の成立とその歩み							
第3回	キャンパスウオーク		弘前学院宣教師館や礼拝堂、図書館など実際に訪れての説明							
第4回	キリスト教の歴史		キリスト教の歴史概説、ユダヤ教とイスラームとの関係							
第5回	旧約聖書概説		旧約聖書の成立、39巻のダイジェスト説明							
第6回	旧約聖書を読んでみる（1）		創世記の伝える神話・物語							
第7回	旧約聖書を読んでみる（2）		モーセと出エジプト記							
第8回	旧約聖書を読んでみる（3）		イスラエル民族の苦難の歴史、サムエル記と列王記を中心に							
第9回	旧約聖書を読んでみる（4）		預言書、知恵文学、諸書を読んでみる							
第10回	新約聖書概説		新約聖書の成立、27巻のダイジェスト解説					レポート提出		
第11回	新約聖書を読んでみる（1）		イエス誕生物語を読む							
第12回	新約聖書を読んでみる（2）		イエスの言葉と行動から考える							
第13回	新約聖書を読んでみる（3）		イエスの死と復活の意味							
第14回	新約聖書を読んでみる（4）		初代教会の成立と使徒たち、パウロ書簡とパウロ							
第15回	まとめと確認		まとめとふりかえり、確認小テスト					レポート提出		
授業方法（ゼミナ ル、グループワ ーク等）	誘導ディスカッ ション	グループワーク	ディベート	クイズ、小テスト	授業中のノート取り	実習、フィールド ワーク				
評価 方法 及び 評価 基準	講義への出席と参加30%、レポート（二回）と小テスト50%、木曜日の礼拝出席20%で評価する。									
課題等	講義時に指示。									
事前事後 学修	講義時に指示した次回の聖書テキストを必ず読んでから参加すること。 事後学習としてやるべきことを指示した場合はそれに従うこと。人にもよるが、週あたり3時間程度要する。									
教材 教科書 参考書	『聖書 新共同訳』新共同訳で旧約聖書・新約聖書両方が入っているもの（入学時購入者は新共同訳である）。 毎回プリントを配布する予定。ノートとプリントをとじるファイルを各自用意すること。									
留意点	場合によっては一回程度オンデマンド講義を行う場合がある。 木曜10：20からの礼拝に参加すること。この講義及び礼拝、また本学のキリスト教教育は信仰を強制するものではない。									

科目名	宗教学（キリスト教）B		科目コード	W23002		単位数 時間	2単位 30時間	対象 学年	1年	開講 学期	後期
区分	総合科学系列科目 教職科目(中一種【社会】) 教職科目(高一種【公民】)	必修 必修	担当者名	石垣 雅子				授業 形態	講義	単独	
授業の 概要等	<p>〔授業の主旨〕</p> <p>キリスト教は他者を尊重し、愛し、お互いに支え合いながら生きることを大切に考える。このことは社会福祉の精神とも重なるものであると考える。聖書のテキストを読み考えることによって、自分と他者、およびこの社会の望ましいあり方を考察したい。</p> <p>〔ディプロマポリシー及びカリキュラムポリシーとの関連する事項〕</p> <p>ディプロマポリシーの1, 2, 3, 4に関連し、カリキュラムポリシーの1-2, 2-2, 3-1, 4-2に関連している。</p>										
到達 目標	<p>1. キリスト教という視点と価値観から自己と他者のあり方を考える。</p> <p>2. 聖書の中の物語やたとえ話を読み考えることを通し、そこにこめられたメッセージを学ぶ。</p> <p>3. キリスト教的な倫理観という視座を得る。</p>										
授 業 計 画											
回	主 題		授 業 内 容 ・ 授 業 時 間 外 の 学 修						備 考		
第1回	方法論		基礎的知識の確認、前期の復習、講義の指針の説明								
第2回	創世記を読む（1）		天地創造物語とその背景（創世記1：1～2：4）								
第3回	創世記を読む（2）		楽園喪失と自立（創世記2：4～3：24）								
第4回	創世記を読む（3）		神のえこひいき（創世記4：1～26）								
第5回	創世記を読む（4）		言葉の必要性（創世記11：1～9）								
第6回	創世記を読む（5）		アブラハム物語（創世記12：1～25：26の中から）						レポート提出		
第7回	福音書を読む（1）		イエス誕生物語（マタイ1：18～2：23 ルカ2：1～20）								
第8回	福音書を読む（2）		放蕩息子のたとえ（ルカ15：11～32）								
第9回	福音書を読む（3）		ぶどう園の労働者の不公平の謎（マタイ20：1～16）								
第10回	福音書を読む（4）		タラントンのたとえ（マタイ25：14～30）								
第11回	福音書を読む（5）		徴税人ザアカイ（ルカ19：1～10）								
第12回	福音書を読む（6）		イエスの教える愛の姿（ルカ6：27～36 ルカ10：25～37）								
第13回	福音書を読む（7）		病といやし（ヨハネ5：1～18 マルコ2：1～12）								
第14回	福音書を読む（8）		「何故」「どうして」と問わない（ヨハネ9：1～12）						レポート提出		
第15回	まとめとふりかえり		今後の課題、講義のまとめとふりかえり								
授業方法（ゼミ 形式の授業 等）	誘導ディスカッション	グループワーク	ペアワーク	資料記入	クイズ、小テスト	授業中のノート取り					
評価 方法 及び 評価 基準	<p>原則としてレポート50%（二回）、講義の出席と参加30%、木曜日の礼拝出席20%で評価する。</p> <p>レポートは創世記から一回、福音書から一回。A4サイズ一枚程度。ルーブリック使用の上、記述の適切さ、自分の考えや意見がきちんと述べられているかどうかを判断する。二回提出されない場合は不合格点となる。</p>										
課題等	講義時に指示。										
事前事後 学修	講義前に予習として聖書テキストを丁寧に読んでくることは必須。人にもよるが週3時間程度要する。										
教材 教科書 参考書	『聖書 新共同訳』新共同訳で旧約聖書・新約聖書両方が入っているもの。 毎回プリントを配布する予定。ノートとプリントをとじるファイルを各自用意すること。										
留意点	木曜日10：20からの礼拝に参加すること。これにより欠席の多い者やレポートに自信のない者を救済する場合がある。										

科目名	歴史学A		科目コード	W23005	単位数	2単位	対象学年	1年	開講学期	前期
			科目ナンバリング	W-TFGS1-03	時間	30時間				
区分	総合科学系列科目 教職科目(高一種【地歴】)	選択 必修	担当者名	斉藤 利男			授業形態	講義	単独	
授業の概要等	<p>〔授業の主旨〕</p> <p>「海を媒介とする交流と文明の世界史」という視点から、古代地中海世界の誕生、古代ギリシアと古代ローマ、ユーラシアの東西交流、イスラム帝国とアジアの大航海時代の順で、古代から中世初めの世界史の学習を行います。また映像教材も大いに活用します。</p> <p>〔ディプロマポリシー及びカリキュラムポリシーとの関連する事項〕</p> <p>ディプロマポリシーの1, 2, 3, 4に関連し、カリキュラムポリシーの1-3, 2-2, 3-2, 4-2に関連している。</p>									
到達目標	他の専門科目や2年次以降の専門科目の学習に必要な世界史（「文明史」の視点からみた古代から中世のユーラシアの歴史）に関する基本的知識を理解し説明できるようになり、歴史的なものの考え方や分析の方法を身につける。									
授 業 計 画										
回	主 題		授 業 内 容 ・ 授 業 時 間 外 の 学 修						備 考	
第1回	ガイダンスー王朝史から文明史・交流史へ、古代エジプト文明の実像を映像から学ぶ		映像教材を使いながら、本授業のねらいを説明します。						講義形式	
第2回	古代エジプト文明とナイル川・地中海世界		研究の発展をふまえた新たな視点からエジプト文明の実像を学ぶ						講義形式	
第3回	海洋民族フェニキア人		ギリシア人と並んで地中海の覇者となったフェニキア人について学ぶ						講義形式	
第4回	海洋民族ギリシア人とギリシア文明		古代エーゲ海世界とギリシア人の登場について学ぶ						講義形式	
第5回	古代ギリシアの発展と都市国家アテナイ 1		都市国家アテナイを中心に古代ギリシア社会の発展について学ぶ						講義形式	
第6回	古代ギリシアの発展と都市国家アテナイ 2		古代ギリシアの黄金時代と都市国家アテナイの繁栄について学ぶ						講義形式	
第7回	ローマ帝国とは、映像から学ぶ		映像からローマ帝国の政治・軍事システムと生活・文化を学ぶ、ミニレポートは前半の総括						講義形式	
第8回	地中海帝国「ローマ帝国」の誕生 1		ローマ帝国誕生の前史を学ぶ						講義形式	
第9回	地中海帝国「ローマ帝国」の誕生 2		都市国家から海洋国家へのローマの発展について学ぶ						講義形式	
第10回	地中海帝国「ローマ帝国」の誕生 3		「地中海帝国」としてのローマ帝国の誕生について学ぶ						講義形式	
第11回	シルクロードとユーラシアの海の道		ローマ帝国時代のユーラシア東西交流の実像を学ぶ						講義形式	
第12回	イスラム帝国とアジアの大航海時代		イスラム帝国の登場とアジアの大航海時代の開始について学ぶ						講義形式	
第13回	イスラム帝国とイスラム文化		「イスラムとは何か」を学び、イスラムに対する誤解を正す						講義形式	
第14回	「海のシルクロード」の誕生ーアジアの大航海時代 1		アジアの第1次大航海時代と「海のシルクロード」について学ぶ						講義形式	
第15回	「海のシルクロード」の誕生ーアジアの大航海時代 2		「海のシルクロード」の発展とアジアの第2次大航海時代について学ぶ						講義形式	
授業方法(ゼミナール、探究(アクティブラーニング)等)	PBL(問題解決型学習)		理解度チェック		学生から出された質問に対しては、全員で考える機会として活用し、教師側からの再質問も交えながら双方向的授業を行います。					
評価方法及び評価基準	毎回講義終了後、講義の内容に関するミニレポートを提出してもらい(15回×2点=30点, 30%)、学期末に講義の内容と到達目標に応じた定期試験を行います(70点, 70%)。定期試験は答案の構成や論理性を重視し、両者を合わせて総合評価(合計100点, 100%)とします。									
課題等	提出されたミニレポートは、次回の授業で紹介し(質問には回答を行います)、授業内容に反映させます。									
事前事後学修	授業に先立って教科書代わりにテキストを配布しますので、あらかじめテキストを読んで準備しておいて下さい。授業後は講義の内容とテキストを照らし合わせて、再確認したり、考える機会として下さい。時間はあわせて3時間程度が理想です。									
教材教科書参考書	当方作成の講義テキスト(地図・写真・資料つき)を教科書に代わる教材として配布します。参考書は講義の進行に合わせて指示します。									
留意点	知は力なり、そして継続も力です。基本的な事項に対する問いも含め、講義内容に対する質問を大いに歓迎します。									

科目名	歴史学B		科目コード	W23006	単位数	2単位	対象 学年	1年	開講 学期	後期
			科目ナンバリング	W-TFGS1-04	時間	30時間				
区分	総合科学系列科目 教職科目(高一種【地歴】)	選択 必修	担当者名	斉藤 利男			授業 形態	講義	単独	
授業の 概要等	<p>〔授業の主旨〕</p> <p>「海を媒介とする交流と文明の世界史」という視点から、モンゴル帝国と「海のシルクロード」の繁栄、モンゴルがもたらしたユーラシア世界の変容、大航海時代の開始と光と影、世界の新たな時代と「世界史の誕生」の順で、中世から近世初めの世界史の学習を行います。</p> <p>〔ディプロマポリシー及びカリキュラムポリシーとの関連する事項〕</p> <p>ディプロマポリシーの1, 2, 3, 4に関連し、カリキュラムポリシーの1-3, 2-2, 3-2, 4-2に関連している。</p>									
到達 目標	他の専門科目や2年次以降の専門科目の学習に必要な世界史（「文明史」の視点からみた中世から近世の世界史）に関する基本的知識を理解し説明できるようになり、歴史的なものの考え方や分析の方法を身につける。									
授 業 計 画										
回	主 題			授 業 内 容 ・ 授 業 時 間 外 の 学 修					備 考	
第1回	ガイダンスー遊牧騎馬民族と海のシルクロードの世界			映像を利用しながら、本授業のねらいを解説します。					講義形式	
第2回	アジアの第二次大航海時代			「アジアの大航海時代」の全盛期の状況について学ぶ					講義形式	
第3回	「陸と海の巨大帝国」モンゴル元帝国 1			遊牧騎馬民族国家「モンゴル・ウルス」の誕生について学ぶ					講義形式	
第4回	「陸と海の巨大帝国」モンゴル元帝国 2			クビライの登場とモンゴル元帝国の海洋国家への発展について学ぶ					講義形式	
第5回	「陸と海の巨大帝国」モンゴル元帝国 3			クビライの通商・経済政策と中国社会の発展について学ぶ					講義形式	
第6回	モンゴル帝国と世界史の新たな時代			モンゴル帝国が世界史の新たな時代を開いたことを学ぶ					講義形式	
第7回	明の建国とユーラシアの再編			モンゴル帝国解体後の世界史を学ぶ、ミニレポートはここまでの総括					講義形式	
第8回	大航海時代の序曲			「大航海時代」はどのように始まったのかを多角的な視点から学ぶ					講義形式	
第9回	海洋王国ポルトガルと大航海時代の開始			海洋国家ポルトガルの誕生とエンリケ航海王子の事業について学ぶ					講義形式	
第10回	コロンブスの大西洋横断航海と新大陸発見			コロンブスの「新大陸発見」の内容とその世界史的意義を学ぶ					講義形式	
第11回	ヴァスコ・ダ・ガマと大航海時代の本格開始			ヴァスコ・ダ・ガマのインド航路開拓と、それがもたらした成果を学ぶ					講義形式	
第12回	ポルトガル海洋帝国			海洋帝国ポルトガルの黄金時代とその実像を学ぶ					講義形式	
第13回	スペイン植民地帝国			「太陽の沈まぬ帝国」スペインの繁栄と植民地支配のシステムを学ぶ					講義形式	
第14回	「大航海時代」がもたらしたもの 1			大航海時代のその後と「銀の洪水」・世界経済の変容について学ぶ					講義形式	
第15回	「大航海時代」がもたらしたもの 2			大航海時代がもたらした世界（日本も含めて）の変容について学ぶ					講義形式	
授業方法(学びの ポイント等)	PBL(問題解決型 学習)		理解度チェック							
	学生から出された質問に対しては、全員で考える機会として活用し、教師側からの再質問も交えながら双方向的授業を行います。									
評価 方法 及び 評価 基準	毎回講義終了後、講義の内容に関するミニレポートを提出してもらい(15回×2点=30点, 30%)、学期末に講義の内容と到達目標に応じた定期試験を行います(70点, 70%)。定期試験は答案の構成や論理性を重視し、両者を合わせて総合評価(合計100点, 100%)とします。									
課題等	提出されたミニレポートは、次回の授業で紹介し(質問には回答を行います)、授業内容に反映させます。									
事前事後 学修	授業に先立って教科書代わりにテキストを配布しますので、あらかじめテキストを読んで準備しておいて下さい。授業後は講義の内容とテキストを照らし合わせて、再確認したり、考える機会として下さい。時間はあわせて3時間程度が理想です。									
教材 教科書 参考書	当方作成の講義テキスト(地図・写真・資料つき)を教科書に代わる教材として配布します。参考書は講義の進行に合わせて指示します。									
留意点	知は力なり、そして継続も力です。基本的な事項に対する問いも含め、講義内容に対する質問を大いに歓迎します。									

科目名	哲学A		科目コード	W23003	単位数 時間	2単位 30時間	対象 学年	2年	開講 学期	前期
			科目ナンバリング	W-TFGS1-05						
区分	総合科学系科目 教職科目（中一種【社会】） 教職科目（高一種【公民】）	選択 必修	担当者名	鎌田 学			授業 形態	講義	単独	
授業の 概要等	<p>〔授業の主旨〕</p> <p>現代的テーマである「生命」、「幸福」、「自由」、「格差」などの諸問題を通覧し、自分の生き方、社会のありかたに対して自覚的に反省する。また、授業の中で、自分の考えを口頭で発表する力、文章にする力を養うための練習も行う。なお、テーマによって漫画、アニメ、映画も利用する。</p> <p>〔ディプロマポリシー及びカリキュラムポリシーとの関連する事項〕</p> <p>ディプロマポリシーの1, 2, 3, 4に関連し、カリキュラムポリシーの1-3, 2-2, 3-2, 4-2に関連している。</p>									
到達 目標	<p>①広範な倫理問題に対して、自分なりの考えを表現できるようになること。</p> <p>②他人の意見を理解し、それに対して問題点を指摘する能力を身につけること。</p> <p>③難解な文章を読む力をつけること。④映像を読み解く力をつけること。</p>									
授 業 計 画										
回	主 題		授 業 内 容 ・ 授 業 時 間 外 の 学 修						備 考	
第1回	ガイダンス		「ここは今から倫理です。」							
第2回	「嘘も方便」は正しいか？		カントの倫理学説（義務論）について							
第3回	サバイバル・ロッタリー		生命倫理の問題、臓器移植は許されるか？							
第4回	「最大多数の最大幸福」		個人と社会のあり方を考える							
第5回	功利主義の基礎		功利主義とは？功利主義者の原典を読んでみる							
第6回	幸福の計算		幸福とは何か、幸福へ至る道とは？							
第7回	人格概念		人格概念を検討する							
第8回	事実判断と価値判断		「である」と「べきである」の関係性について							
第9回	カントの定言命法		カントの倫理学説再説							
第10回	思いやりだけで道德の原則ができるか？		道德の原則とは何か？							
第11回	囚人のジレンマ		囚人にとって一番利益になる行為とは？							
第12回	施しは義務か？		貧者を援助しなければならないことの根拠							
第13回	正義は時代によって変わるか？		「格差」問題を考える							
第14回	科学は価値中立的か？		科学技術の光と闇							
第15回	まとめ		授業全体のまとめ							
授業方法(レクチャー、PBL(問題解決型学習)、演習)	PBL(問題解決型学習)		理解度チェック							
評価方法及び評価基準	各種課題（50%）と期末試験（50%）。期末試験の評価は、小論文の内容、論理的構成、表記の正確さによって行う。									
課題等	ワークシート“atelier”は翌週に返却。									
事前事後学修	教科書の該当箇所を事前に一読し、内容を把握しておくこと。3時間程度の準備が必要。									
教材教科書参考書	『現代倫理学入門』（加藤尚武、講談社学術文庫、本体1067円、ISBN978-4061592674）									
留意点	毎週、ワークシート“atelier”を授業時間内に完成させ、提出する。									

科目名	哲学B		科目コード	W23004	単位数	2単位	対象	2年	開講	後期
			科目ナンバリング	W-TFGS1-06	時間	30時間	学年		学期	
区分	総合科学系列科目 教職科目（中一種【社会】） 教職科目（高一種【公民】）	選択 必修	担当者名	鎌田 学			授業 形態	講義	単独	
授業の 概要等	<p>〔授業の主旨〕</p> <p>ノーベル文学賞を1957年に受賞したカミュの『シーシュポスの神話』を読む。「不条理の哲学」と評されることが多いが、カミュの文章から多様なテーマを導き出し、追思考したい。</p> <p>〔ディプロマポリシー及びカリキュラムポリシーとの関連する事項〕</p> <p>ディプロマポリシーの1, 2, 3, 4に関連し、カリキュラムポリシーの1-3, 2-2, 3-2, 4-2に関連している。</p>									
到達 目標	文章を正確に読み込んで、自分なりに解釈できるようになること。									
授 業 計 画										
回	主 題			授 業 内 容 ・ 授 業 時 間 外 の 学 修						備 考
第1回	ガイダンス			授業の進め方						
第2回	シーシュポスの神話			概観						
第3回	不条理な論証			講読、問題提起、ディスカッション						
第4回	不条理と自殺			講読、問題提起、ディスカッション						
第5回	不条理と自殺②			講読、問題提起、ディスカッション						
第6回	不条理な壁			講読、問題提起、ディスカッション						
第7回	不条理な壁②			講読、問題提起、ディスカッション						
第8回	哲学上の自殺			講読、問題提起、ディスカッション						
第9回	哲学上の自殺③			講読、問題提起、ディスカッション						
第10回	不条理な自由			講読、問題提起、ディスカッション						
第11回	不条理な人間			講読、問題提起、ディスカッション						
第12回	不条理な人間②			講読、問題提起、ディスカッション						
第13回	不条理な創造			講読、問題提起、ディスカッション						
第14回	不条理な創造③			講読、問題提起、ディスカッション						
第15回	まとめ			授業全体のまとめ						
授業方法 (ブレンド、フリンギング等)	PBL（問題解決型学習）	発表、ポスター作成	誘導ディスカッション							
評価 方法 及び 評価 基準	各種課題（50%）と期末試験（50%）。期末試験の評価は、小論文の内容、論理的構成、表記の正確さによって行う。									
課題等	毎週、ワークシート“atelier”を授業時間内に完成させ、提出する。									
事前事後 学修	教科書の該当箇所を事前の一読し、内容を把握しておくこと。3時間程度の準備が必要。									
教材 教科書 参考書	カミュ『シーシュポスの神話』（清水徹訳、新潮文庫737円、ISBN978-4102114025）									
留意点	履修者は分量のある文章を毎週読み込んで、予習してくること。									

科目名	心理学A		科目コード	W23007	単位数 時間	2単位	対象 学年	1年	開講 学期	前期
			科目ナンバリング	W-TFGS1-07		30時間				
区分	総合科学系列科目 社会福祉士指定科目 精神保健福祉士指定科目	選択 必修	担当者名	山本 尚樹			授業 形態	講義	単独	
授業の 概要等	<p>【授業の主旨】 人とコミュニケーションを行っていくためには、その背後にある人の心のメカニズムの理解が必須となります。この授業では様々な心の能力の基礎的なメカニズムを学んでいきます。</p> <p>〔ディプロマポリシー及びカリキュラムポリシーとの関連する事項〕 ディプロマポリシーの1, 2, 3, 4に関連し、カリキュラムポリシーの1-3, 2-2, 3-2, 4-1, 4-2に関連している。</p>									
到達 目標	<p>1) 心理学の学問的特徴を理解する。 2) 「言語」「情動」「思考」などのコミュニケーションの基盤となる様々な心的能力の基本部分を理解する。 3) コミュニケーションの際に留意すべき心の個人差、文化差、つまづきについて理解する。</p>									
授 業 計 画										
回	主 題		授 業 内 容 ・ 授 業 時 間 外 の 学 修						備 考	
第1回	ガイダンス		授業全体の概要や履修上の注意点を説明する。							
第2回	心理学とは何か		科学としての「心理学」がどのような学問か、概説する。							
第3回	心と脳		心のメカニズムの基盤となる中枢神経系について概説する。							
第4回	感覚と知覚（1）		視覚を中心に取り上げ人の感覚知覚の基礎的知見について概説する。							
第5回	感覚と知覚（2）		視覚を中心に取り上げ人の感覚知覚の応用的知見について概説する。							
第6回	記憶		人の記憶のメカニズムについて概説する。							
第7回	学習		人の学習に関する心理学の基礎研究や理論について概説する。							
第8回	言語		人が言語を理解、算出するメカニズムについて概説する。							
第9回	思考		人の思考のメカニズムとその傾向について概説する。							
第10回	情動		人の情動がその他の心的能力とどのように関わるのか概説する。							
第11回	性格・個人差		人の心の個人差に関する研究について概説する。							
第12回	社会と認知		人を取り巻く社会や文化がどのように物事の捉えかたに影響するのか概説する。							
第13回	心と進化		進化という観点から人の心の発生や特徴について概説する。							
第14回	認知と文化		人の認知機能にどのように文化が関わるか、概説する。							
第15回	まとめとふりかえり		授業全体について総括、補足する。							
授業方法(ゼミ など、777(7)「ラニ ンク」等)	資料記入	リフレクションシート								
評価 方法 及び 評価 基準	平常点（授業の参加態度、コメントペーパーなど）40%、期末レポート60%									
課題等	毎回コメントペーパーの執筆を課す。他、期末レポートを課す。									
事前事後 学修	事前学習について、授業前にシラバスに書いてある主題について各自文献などで調査しておくこと。また、毎回の授業をノートを取り、事後学習として復習を行うこと。									
教材 教科書 参考書	* 毎回の授業内容を記載したプリントを配布する。その他、参照してほしい文献などがある場合適宜指示する。									
留意点	特になし									

科目名	心理学B		科目コード	W23008	単位数 時間	2単位	対象 学年	1年	開講 学期	後期
			科目ナンバリング	W-TFGS1-08		30時間				
区分	総合科学系列科目 社会福祉士指定科目 精神保健福祉士指定科目	選択 必修	担当名	山本 尚樹			授業 形態	講義	単独	
授業の 概要等	<p>【授業の主旨】 人は絶えず成長・変化していく存在であるが、時には大なり小なり心理的トラブルに見舞われることがある。そうした時には周囲や専門職の手を借りることもある。この授業では心理学の中でも発達心理学と臨床心理学と呼ばれる領域を概説し、自分や他人の理解に資する知見を学んでいく。</p> <p>〔ディプロマポリシー及びカリキュラムポリシーとの関連する事項〕 ディプロマポリシーの1, 2, 3, 4に関連し、カリキュラムポリシーの1-3, 2-2, 3-2, 4-1, 4-2に関連している。</p>									
到達 目標	<p>1) 人の生涯発達、認知言語発達、対人関係の発達の变化について理解する。 2) 様々な心身の不調や心理療法の基本的な考え方について理解する。</p>									
授 業 計 画										
回	主 題			授 業 内 容 ・ 授 業 時 間 外 の 学 修					備 考	
第1回	ガイダンス			授業全体の概要や履修上の注意点を説明する。						
第2回	生涯発達			生涯発達とは何か、またその発達段階について概説する。						
第3回	乳幼児期の認知・言語発達			乳幼児期の認知発達、言語発達について概説する。						
第4回	対人関係の発達			アタッチメントなどの対人関係の発達について概説する。						
第5回	心理的障害の見取り図			臨床心理学における異常（不適応）の考え方と精神医学的な診断基準について概説する。						
第6回	様々な心理的障害（1）			うつ、躁（双極性障害）、パニック症、強迫症について概説する。						
第7回	様々な心理的障害（2）			心的外傷後ストレス障害、統合失調症、パーソナリティ障害に関連する心理的障害について概説する。						
第8回	様々な心理的障害（3）			社交不安症、様々な発達障害について概説する。						
第9回	臨床心理面接			相談申し込みから心理的援助までの流れ、面接の基本枠組みなど心理面接の全体像を概説する。						
第10回	臨床心理学的アセスメント			臨床心理学におけるアセスメントについて、一連の流れを概観しながら説明していく。						
第11回	精神分析療法			心理療法について、精神分析の理論と実践を概説する。						
第12回	クライアント中心療法			心理療法について、クライアント中心療法の理論と実践を概説する。						
第13回	行動療法・認知療法			行動療法、認知療法について概説する。						
第14回	様々な心理療法のパラダイム			森田療法、内観療法、分析心理学などについて概説する。						
第15回	臨床心理学の現場			医療、教育、福祉など様々な領域でどのように心理臨床が関わるのか概説する。						
授業方法（ビデオ、PPT（パワーポイント）等）	資料記入	リフレクションシート								
評価方法及び評価基準	平常点（授業の参加態度、コメントペーパーなど）40%、期末レポート60%									
課題等	毎回コメントペーパーの執筆を課す。他、期末レポートを課す。									
事前事後学修	事前学習について、授業前にシラバスに書いてある主題について各自文献などで調査しておくこと。また、毎回の授業をノートを取り、事後学習として復習を行うこと。									
教材教科書参考書	* 毎回の授業内容を記載したプリントは毎回配布する。その他、参照してほしい文献などがある場合適宜指示する。									
留意点	特になし									

科目名	情報処理 A (a) (b) (c) (d) (数理・データサイエンス・AI)		科目コード	(a) W23009 (b) W23030 (c) W23031 (d) W23032	単位数 時間	2単位 30時間	対象 学年	1年	開講 学期	前期
			科目ナンバリング	W-TFGS2-09						
区分	総合科学系系列科目 教職科目	選択 必修	担当者名	大塚 敬義			授業 形態	講義	単独	
授業の 概要等	<p>〔授業の主旨〕 Microsoft Officeの操作方法およびインターネットの正しい活用方法を学び、コンピュータを不自由なく使うための基本能力を身につけることを目的とする。また、SNSとの向き合い方や個人情報の保護、著作権の侵害などについても学ぶ。 〔ディプロマポリシー及びカリキュラムポリシーとの関連する事項〕 ディプロマポリシーの1, 2, 3, 4に関連し、カリキュラムポリシーの1-3, 2-2, 3-2, 4-2に関連している。</p>									
到達 目標	<p>①授業支援サイトを有効利用できる。 ②基本的なPC操作項目や業務効率を上げる操作技術を理解できる。 ③実務で役立つWord文書を作成できる。 ④初級程度のExcel活用能力を獲得できる。 ⑤PowerPointにより自分が調べたことを他者にわかりやすく伝えることができる。</p>									
授 業 計 画										
回	主 題		授 業 内 容 ・ 授 業 時 間 外 の 学 修						備 考	
第1回	ガイダンス		Windowsの起動と終了、Microsoft Officeの設定							
第2回	メールの活用		メールの設定、メールの書き方、メールのマナー						情報倫理を含む	
第3回	学内環境の理解		IDとパスワードの重要性、授業支援サイトの利用						情報セキュリティ・情報倫理を含む	
第4回	個人情報や著作権について		SNSとの向き合い方、個人情報や著作権、検索サイトの使い方						インターネットによる学術情報の利用	
第5回	Wordの基本操作 1		文書の新規作成・編集・保存、文字入力、ショートカット操作の学習							
第6回	Wordの基本操作 2		ページ設定、印刷、文字・段落の書式設定							
第7回	Wordの基本操作 3		表の作成、図形・画像の挿							
第8回	Wordの基本操作 4		ビジネス文書の作成							
第9回	PowerPointの利用		用紙サイズの設定、アニメーションの作成、テーマの利用							
第10回	Excelによる表計算(1)		基本操作、加減乗除の計算順							
第11回	Excelによる表計算(2)		関数の利用：合計、平均、最大最小 絶対参照の活							
第12回	Excelによる表計算(3)		関数の利用：条件判定 順位付け 表検索							
第13回	Word, Excel, PowerPointの連携		アプリ間のデータ相互利用、貼り付け時の書式の使い分け							
第14回	実技試験 小テスト(1)		Wordによる実力判定テスト							
第15回	実技試験 小テスト(2)		Excelによる実力判定テスト							
授業方法(オンライン、フリップ、ブレンド等)	実習、フィールドワーク		教員からの説明を聞くのみだけでなくPC端末を用いて実際に自分の手を動かす。							
評価方法及び評価基準	毎回の授業への取り組み姿勢・授業参加度30%、提出物45%、期末試験25%の比率で評価する。事前準備、事後学習の状況も評価の対象とする。									
課題等	授業内で課題が出る。できていない場合は期限までに提出する。 ※ 欠席した場合も掲示に従って必ず期限までに提出すること。									
事前事後学習	2単位科目では週当たり3時間、実習形式の科目は90分の授業外の学修内容が必要である。 事前学習：シラバスの確認、教科書の当該箇所の予習。与えられたテーマについて自分なりの情報収集をしておくこと。 事後学習：授業中に学んだ機能・操作方法を、テキストと照らし合わせながら復習して確認すること。課題も提出のこと。									
教材教科書参考書	【教科書】『30時間でマスター Office2021』, 実教出版, ISBN 978-4-407-35937-4									
留意点	受講する時間によって科目コードが違うので間違えないこと。 上記教科書を購入すること。教室外においてネット接続できるPC環境を備えていない学生はUSBメモリーを用意すること。									

科目名	情報処理B (a) (b) (c) (数理・データサイエンス・AI)		科目コード	(a) W23010 (b) W23033 (c) W23034	単位数 時間	2単位	対象 学年	1年	開講 学期	後期
			科目ナンバリング	W-TFGS2-10		30時間				
区分	総合科学系列科目 教職科目	選択 必修	担当者名	大塚 敬義			授業 形態	講義	単独	
授業の 概要等	<p>〔授業の主旨〕</p> <p>本授業では、「情報処理A」の次段階として、Society5.0時代に向けて必要となるAIやデータサイエンスの基礎知識と、これらを活用して諸課題を解決する基盤となる能力を身に付けることを目的とする。</p> <p>〔ディプロマポリシー及びカリキュラムポリシーとの関連する事項〕</p> <p>ディプロマポリシーの1, 2, 3, 4に関連し、カリキュラムポリシーの1-3, 2-2, 3-2, 4-2に関連している。</p>									
到達 目標	<p>①AI・データサイエンスの必要性を説明できる</p> <p>②社会におけるAI・データサイエンスの活用事例を説明できる</p> <p>③多量なデータを含む情報を分析し整理することができる</p>									
授 業 計 画										
回	主 題		授 業 内 容 ・ 授 業 時 間 外 の 学 修						備 考	
第1回	ようこそデータサイエンスへ		データサイエンスで学ぶこと、データサイエンスを学ぶ心構え							
第2回	AIにサポートされる社会		AIによる共助の促進、AIに代替される経験知							
第3回	情報をめぐる世の中の潮流		情報を利活用する技術の変遷～使い方はどう変わってきたのかを知る～、Society5.0に向けた情報利活用の課題と対策～日本が目指す社会を知る～							
第4回	広がるデータ活用の幅		身近に広がるデータサイエンス							
第5回	開発の歴史といま		人工知能技術の成長と限界、生活の中のAI							
第6回	情報倫理とセキュリティ		情報セキュリティの要素、暗号資産のセキュリティ							
第7回	データの種類とその活用		データの種類、データの活用事例							
第8回	データリテラシー		平均とは、偏差値とは							
第9回	データの収集と視覚化		グラフの種類、誤解されないグラフ、2つのデータの関係、標本の抽出方法							
第10回	データの解析方法		2つのデータの関連性、平均の差の検定 (t検定)							
第11回	情報の利活用と方法		情報の可視化、AIの登場と進化、データやAIを扱うときの注意点							
第12回	AIによる生活のアップデート(1)		スマートスピーカーやAIアシスタント、ロボット掃除機、無人決済店舗、チャットボット、自動翻訳、ボードゲーム							
第13回	AIによる社会のアップデート(2)		移動、農業、医療のそれぞれにおけるAIの利活用							
第14回	秩序あるデータの重要性		AI・データサイエンス時代のプライバシー保護、データと真摯に向き合う、信頼できる人工知能を目指して、AI活用における責任の所在							
第15回	これからの学びに向けて		データサイエンスのこれから、AIと労働問題～AIは人間を超えたか？～、デジタル・シティズンシップの重要性							
授業方法 (ゼミナール、フューチャリング等)	実習、フィールドワーク		教員からの説明を聞くのみでなくとどめずPC端末を用いて実際に自分の手を動かす。							
評価方法及び評価基準	毎回の授業への取り組み姿勢・授業参加度30%、提出物45%、期末試験25%の比率で評価する。事前準備、事後学習の状況も評価の対象とする。									
課題等	授業内で課題が出る。できていない場合は期限までに提出する。 ※ 欠席した場合も掲示に従って必ず期限までに提出すること。									
事前事後学修	2単位科目では週当たり3時間、実習形式の科目は90分の授業外の学修内容が必要である。 事前学習：シラバスの確認、教科書の当該箇所の予習。与えられたテーマについて自分なりの情報収集をしておくこと。 事後学習：授業中に学んだ機能・操作方法を、テキストと照らし合わせながら復習して確認すること。課題も提出のこと。									
教材教科書参考書	【教科書】『大学基礎 データサイエンス』、実教出版、ISBN 978-4-407-36122-3									
留意点	受講する時間によって科目コードが違うので間違えないこと。 上記教科書を購入すること。教室外においてネット接続できるPC環境を備えていない学生はUSBメモリーを用意すること。									

科目名	スポーツ科学概論		科目コード	W23011	単位数 時間	2単位	対象 学年	1年	開講 学期	前期
			科目ナンバリング	W-TFGS1-11		30時間				
区分	総合科学系列科目	選択	担当者名	棟方 達也			授業 形態	講義	単独	
	教職科目	選択 必修								
授業の概要等	<p>〔授業の主旨〕 スポーツは遊びである。しかしスポーツは、現代社会に広く浸透し、文化的生活に多大な影響を与える存在となっているだけでなく、物質的にも精神的にも世界を動かす大きな要因となっている。本講義では、スポーツ界の象徴であり縮図とも言えるオリンピックを中心にスポーツを多角的に概観するほか、スポーツに関する各論を含めスポーツ像を再構築する。</p> <p>〔ディプロマポリシー及びカリキュラムポリシーとの関連する事項〕 ディプロマポリシーの1, 2, 3, 4に関連し、カリキュラムポリシーの1-4, 2-2, 3-2, 4-1に関連している。</p>									
到達目標	スポーツの存在意義を再認識し、スポーツを理解し新たなスポーツ像を描く視点を学ぶ。									
授 業 計 画										
回	主 題			授業内容・授業時間外の学修				備考		
第1回	ガイダンス及び導入			単位、評価、科目の位置付け等の説明。						
第2回	スポーツ科学という学問領域とは？			スポーツを学問の対象にするとはどういうことか。スポーツ科学の学問体系を概観する。				ppt. スライドとプリントを使って講義		
第3回	身体運動の存在意義とそのスポーツ化			身体運動の存在意義を人類の歴史に即して捉え、身体運動が実用術から非実用術へ移行しスポーツ化する過程を理解する。				ppt. スライドとプリントを使って講義		
第4回	古代オリンピック			古代ギリシャで長年開催されていた古代オリンピックから当時のスポーツ観やスポーツの存在価値を知る。				ppt. スライドとプリントを使って講義		
第5回	近代オリンピックの歴史1			その始まりと理念及び第2次世界大戦以前の普及と存在意義の変容を知る。				ppt. スライドとプリントを使って講義		
第6回	近代オリンピックの歴史2			日本と近代オリンピックの関係を歴史的に見る（JOCホームページ等参照）				ppt. スライドとプリントを使って講義		
第7回	オリンピックの構造			そもそもオリンピックというスポーツイベントはどのようなものなのかを『オリンピック憲章』に基づいて理解する。（JOCのホームページで『オリンピック憲章』を探してみよう。）				ppt. スライドとプリントを使って講義		
第8回	映像資料に見るオリンピック			オリンピックの精神やエピソード、魅力等をDVD映像から学ぶ。				DVDを資料に使う講義		
第9回	オリンピックビジネス			特にプロ解禁以降、世界を動かすビジネスとして拡大し続けるオリンピックを商業主義の観点からふまえて理解する。				ppt. スライドとプリントを使って講義		
第10回	各論1-a（ドーピング1）			ドーピングの実態とアンチ・ドーピングへの世界的な取り組みを学ぶ。（JADAやJOC等のホームページ参照）				ppt. スライドとプリントを使って講義		
第11回	各論1-b（ドーピング2）			ドーピングの実態とアンチ・ドーピングへの世界的な取り組みを学ぶ。（JADAやJOC等のホームページ参照）				ppt. スライドとプリントを使って講義		
第12回	各論2（スポーツと国際情勢）			スポーツ界から見る国際情勢を「伝播」「宗教」「女性」といった観点から捉える。				ppt. スライドまたはDVDを使って講義		
第13回	各論3（スポーツと自然）			自然を対象とする身体運動の概念と科学の進歩によるアウトドアスポーツ（登山を例に）の変容を理解する				ppt. スライドとプリントを使って講義		
第14回	各論4（障害者スポーツ）			障害者スポーツの現状と課題をパラリンピックを題材として理解する。（レポート対象）				Web等で公開されている映像の活用		
第15回	総括			これまでの講義全体を振り返り、補足や要点の整理をする。試験の傾向と対策						
授業方法（授業形式、教材等）	授業中のノート取り									
評価方法及び評価基準	試験：93点（講義で扱ったスポーツに関する最低限の知識及びスポーツに対する認識と理解度を問う設問集） ※配布したプリント（ppt. スライド）に加えて、講義内容をしっかりノートしていることを前提に問題を出す。レポート：7点									
課題等	オリンピックをはじめとするスポーツ関連の情報（ニュース等）に日頃から注意を向ける。多様なメディア活用									
事前事後学修	JOC（日本オリンピック委員会）、JADA（日本アンチ・ドーピング機構）等のホームページの情報を講義内容の理解（特に復習）に活用することが有効である。[ICTの活用]									
教材教科書参考書	ppt. スライド使用、プリント配布、DVD									
留意点	<ul style="list-style-type: none"> ・出席は取らないが、自身でしっかりノートを取らないと、後でプリントだけ見ても理解できない内容。 ・教職免許のために確実に「体育（2単位）」を習得したい人は、実技も2種目（2単位分）履修するという保険を掛けることをお勧めする。 									

科目名	ヘルスサイエンス論		科目コード	W23022	単位数	2単位	対象学年	1年	開講学期	後期
			科目ナンバリング	W-TFGS1-12	時間	30時間				
区分	総合科学系科目	選択	担当者名	宇田 宗弘				授業形態	講義	単独
授業の概要等	<p>〔授業の主旨〕</p> <p>健康を保持増進したり、疾病の予防や早期発見と早期治療を行うには、健康や疾病についての基礎知識が必要である。また自分自身の健康のみでなく、家族の健康や職業などで他者の健康にかかわることも考えられることから、健康や疾病の知識を持つことは有益である。本講義は主に身体活動と体力・栄養・休養の視点から健康の保持増進について学習します。</p> <p>〔ディプロマポリシー及びカリキュラムポリシーとの関連する事項〕</p> <p>ディプロマポリシーの1に関連し、カリキュラムポリシーの1-4に関連している。</p>									
到達目標	<p>人体の臓器（または組織）の基本的な機能を理解するとともに、現在人の健康の保持増進についての基礎知識を身につける。</p>									
授 業 計 画										
回	主 題		授 業 内 容 ・ 授 業 時 間 外 の 学 修						備 考	
第1回	授業の進め方などの説明、および熱中症について		授業の進め方と評価方法の説明、体温調節、熱中症の分類							
第2回	健康とは、健康問題の概観		健康の概念、統計からみた現代の健康問題、健康問題の発生要因							
第3回	栄養と健康（1）		消化と吸収のしくみ、栄養素の機能、サプリメント							
第4回	栄養と健康（2）		肥満							
第5回	心身の健康を知る（1）		健康診断（身長、体重、BMI、血圧、心電図、胸部X線）							
第6回	心身の健康を知る（2）		健康診断（血液検査：血球数、ヘモグロビン値、コレステロール、中性脂肪、クレアチニン値）							
第7回	心身の健康を知る（3）		メタボリックシンドローム、心の健康							
第8回	体力および持久力の指標		体力の分類とその加齢変化、および持久力の指標（視聴・課題提出期間：11月12日～11月21日を予定）						オンデマンド授業（予定）	
第9回	体活動・体力と疾病の関係		身体活動量・体力と疾病との関係、および健康関連体力							
第10回	身体運動のプログラム		効率的に持久力、筋力（筋肥大）、柔軟性を高めるトレーニングの方法							
第11回	身体活動・運動ガイド、WHO身体活動および座位行に動関するガイドライン		健康づくりのための身体活動・運動ガイド2023とWHOとWHO身体活動および座位行に動関するガイドライン							
第12回	身体運動（スポーツ）による外傷・障害と応急処置		急性損傷、慢性損傷、RICE処置、突然死							
第13回	アダプテッド・スポーツ		アダプテッド・スポーツとは？、アダプテッド・スポーツの歴史と考え方							
第14回	アルコール・喫煙・睡眠と健康		健康に配慮した飲酒に関するガイドライン、人体への喫煙による急性・慢性の影響、健康づくりのための睡眠ガイド2023							
第15回	生物学的女性の健康と医学		性ホルモンの変化と卵巣および月経周期、月経関連疾患（PMS、月経困難症など）							
授業方法（アクティブラーニング等）	資料記入	理解度チェック	健康づくりのための身体活動・運動ガイド2023では座位行動を減らすことが推奨されているため、30分に一度スクワット（10回）を行います。							
評価方法及び評価基準	2/3以上の出席者につき、定期試験（100%）によって評価し、60%（60点）以上を合格とします。									
課題等	課題等については授業で説明します。									
事前事後学修	教科書は指定していませんが、各回の授業内容について図書館などを利用して各自で予習（1.5時間）をしてください。また復習として授業で説明した内容やその根拠、関連する事柄、疑問点などについて官公庁の資料や研究論文、書籍などで調べてください（1.5時間）。									
教材教科書参考書	講義時にプリントを配布します。									
留意点	新聞や雑誌の健康に関する記事や生活・科学欄を読むようにしてください。また質問や疑問がある場合は6号館（看護学部棟）の宇田研究室に来てください。Teamsを使用します。授業では「Slido」を用い、匿名でのライブアンケートや質疑応答、確認テストを行うことがあります。									

科目名	スポーツ科学実技A (バスケット1)		科目コード	W23012	単位数 時間	1単位	対象 学年	全学年	開講 学期	前期
			科目ナンバリング	W-TFGS0-13		16時間				
区分	総合科学系列科目 教職科目	選択 選択 必修	担当者名	棟方 達也 (実務経験：公認指導資格を有する教員)			授業 形態	実技	単独	
授業の 概要等	<p>〔授業の主旨〕 5人制バスケットボールの最も基本的な個人の動きからゲームにおけるチーム(5人)の攻防の展開までを論理的に理解しつつ実戦を学ぶ。但し、実技の授業は、通常、予習や復習ができない。また週に一度の授業で技術はほとんど上手くはならない。しかし、結果に関わらず「どうすれば」あるいは「なぜそうするのか」を理解し、実際にやってみることに意義がある。尚、重要な技能要素の一つであるドリブルの習得には、個別に相当量の練習時間を要するため、授業時間内では紹介のみとする。</p> <p>〔ディプロマポリシー及びカリキュラムポリシーとの関連する事項〕 ディプロマポリシーの1, 2, 3, 4に関連し、カリキュラムポリシーの1-4, 2-1, 3-2, 4-1に関連している。</p>									
到達 目標	バスケットボールという球技を合理的に理解する。そのために、動きや体の使い方の意味を理解し、実戦においては、チームの一人一人に必ず役割とやるべきことがあることをふまえ、何をすべきか判断し積極的に動くよう努力する。技術的には、オフェンスにおいては最低限のパスワーク、ステップ、ラン及び連携を体得する。また、マンツーマンディフェンスにおける基本的な構えと位置どりや体の使い方を理解し実践する。									
授 業 計 画										
回	主 題			授 業 内 容 ・ 授 業 時 間 外 の 学 修					備 考	
第1回	ガイダンス			・受講者数、経験の有無等の確認 ・体育館での実技授業の受講に関わる留意点の伝達					場所：体育館 実技の準備不要	
第2回	講義 1			1. ルーブリックの解説 2. 名称、歴史、コートの規格等 3. 最終的に5対5のゲームをする際に、最低限知っておくべきルールの解説。					場所：教室 ルーブリック配布	
第3回	講義 2			基礎知識の確認と筆記テスト						
第4回	基本の動き 1			ストップ動作を軸とするウォーク、ラン、ステップの確認とそれらに関連する重心移動 フットワーク各種、対人の動き						
第5回	基本の動き 2			フットワーク各種、対人の動き						
第6回	基本の技術 1			ボールハンドリング、ドリブル、ピボット、キャッチ、パス、ミート 等						
第7回	基本の技術 2			対面パス(各種のパス)、移動を伴うパス、パス&ラン(三角パス、四角パス)						
第8回	オフェンス 1			パス&ラン、シュートの基本(セット、ランニング、ドリブル)、2メン						
第9回	オフェンス 2			シュートの基本、2メン、3メン(3線の理解)						
第10回	オフェンス 3			3メン、アウトナンバー(2対1、3対2)、得点の確率を上げるための合理的な展開						
第11回	ディフェンス 1			マンツーマンディフェンスの基本(位置取りの原則、ボールラインの理解、視野等) 1対1						
第12回	ディフェンス 2			マンツーマンディフェンスの基本(位置取りの原則、ボールラインの理解、視野等) 2対2、						
第13回	ディフェンス 3			マンツーマンディフェンスの基本(位置取りの原則、ボールラインの理解、視野等) 3対3、アウトナンバーディフェンス						
第14回	攻防の展開 1			5対5(ゲーム形式)						
第15回	攻防の展開 2 及び実技テスト			5対5(ゲーム形式)、実技テスト						
授業方法(レクチャー、グループワーク、ペアワーク、実技等)	グループワーク	ペアワーク	理解度チェック							
評価方法及び評価基準	<p>・評価点数配分の内訳、実技の評価基準の詳細等をルーブリックにて提示、解説</p> <p>・授業への参加状況：50点 実技テスト：30点 筆記テスト：20点</p>									
課題等	特に無し									
事前事後学修	筆記テストへの対応として、最初に配布するプリントの内容と授業内で確認するルールをよく理解しておくこと。実技なので個別の予習、復習は困難。									
教材教科書参考書	使用しない									
留意点	男女問わず。部活動その他で専門的な指導を受けたことのない人を対象とする。3学部合同で実施 定員：24名 受講希望者が24名を超えた場合は、抽選とする。また、受講者が10名に満たない場合は、内容を大幅に変更、もしくは開講しない場合もある。									

科目名	スポーツ科学実技D (バスケット2)		科目コード	W23015	単位数 時間	1単位	対象 学年	全学年	開講 学期	後期変則
			科目ナンバリング	W-TFGSO-16		16時間				
区分	総合科学系列科目 教職科目	選択 必修	担当者名	棟方 達也 (実務経験：公認指導資格を有する教員)			授業 形態	実技	単独	
授業の 概要等	<p>〔授業の主旨〕 原則として部活動その他でバスケットボールの専門的な指導を受けた経験がある人を対象とする。 (経験年数不問) この授業は、1つのスポーツ競技としてのバスケットボールを総合的に理解することを目的とする。そのため、実技はもちろんのこと、ゲーム運営(審判及びテーブルオフィシャル)、スポーツボランティア体験及びハイレベルなゲームの分析も含まれる。</p> <p>〔ディプロマポリシー及びカリキュラムポリシーとの関連する事項〕 ディプロマポリシーの1, 2, 3, 4に関連し、カリキュラムポリシーの1-4, 2-1, 3-2, 4-1に関連している。</p>									
到達 目標	バスケットボールの総合的な理解と実践									
授 業 計 画										
回	主 題		授 業 内 容 ・ 授 業 時 間 外 の 学 修						備 考	
第1回	ガイダンス		・バスケ経歴の確認 ・体育館での実技授業の受講に関わる留意点の伝達 ・基礎知識の確認と解説 [反転学習] ・後半日程と内容の解説						教室にて実施 実技の準備は不要	
第2回	実技：基本の確認		レベルチェックのための各要素(パス、ラン、ドリブル、シュートなど)の確認 [反転学習]							
第3回	オフェンス1		パス、ラン、シュート、1対1~3対3、スクリーンプレー、ノードリブルオフェンス、アウトナンバーオフェンス その他							
第4回	オフェンス2									
第5回	ディフェンス1		マンツーマンディフェンスの基本、フルコートディフェンス、アウトナンバーディフェンス その他							
第6回	ディフェンス2									
第7回	攻防の展開		5対5 (ゲーム形式)							
第8回	テーブルオフィシャル及びスタッツ		正しいT0の運営とスタッツ入力の理解						教室にて実施	
第9回	審判の基礎		JBA公認審判(E級)講習を受講する [ICT活用：eラーニング] (要受講関係費用¥1,400 ※2024年度参考) ※既に取得済みの者は免除						12月までに修了すること	
第10回										
第11回	スポーツボランティア体験		Bリーグ・青森ワッツのホームゲームボランティアを体験し、レポートする。 [フィールドワーク、グループワーク]						10月~12月開催のゲームを対象とする	
第12回										
第13回										
第14回	ゲーム分析		国内、国外のハイレベルな試合(プロリーグ等)を観戦(映像可)しレポートする。						観戦方法によっては、ICTの活用(WEB配信映像)	
第15回										
授業方法(ゼミナ ド、7対7、eラー ニング等)	実習、フィールド ワーク	グループワーク	資料記入	理解度チェック	リフレクションシート					
評価 方法 及び 評価 基準	<ul style="list-style-type: none"> ・授業参加状況：30点 ・実技レベル：20点 (5段階評価) ・eラーニング修了：20点 ・ボランティア体験報告：20点 ・ゲーム分析レポート：10点 									
課題等	eラーニング及びボランティアは必須課題とし、修了が確認できない場合は、単位不可とする。									
事前事後 学修	eラーニングやゲーム分析は、開講以前(前期中)でも実行可能なので、希望者は事前に申し出ること。									
教材 教科書 参考書	必要に応じて、提示、配布する。									
留意点	男女問わず。同年度においてバスケットボール1(A)と両方の受講は認めない。3学部合同で実施 定員：18名 受講希望者が定員を超えた場合は、抽選とする。また、受講者が10名に満たない場合は、内容を大幅に変更、もしくは開講しない場合もある。									

科目名	スポーツ科学実技E (スクーバダイビング)		科目コード	W23016	単位数 時間	1単位	対象 学年	全学年	開講 学期	前期集中
			科目ナンバリング	W-TFGSO-17		16時間				
区分	総合科学系列科目 教職科目	選択 必修	担当者名	棟方 達也 土田 浩人 (協カインストラクター) (実務経験のある教員)			授業 形態	実技	単独	
授業の 概要等	<p>〔授業の主旨〕 NAUIオープンウォーターダイバー(以下OWD)認定コースを受講することで、スポーツスクーバダイビング技能の習得を目指すとともに海浜(海洋)野外活動を学ぶ。(2泊3日合宿型) OWDに認定されると、「Certification Card(通称:Cカード)」という世界共通の認定証が取得でき、さらにスキルアップして各種ダイバー資格の取得を目指す第一歩となる。実習期間中に認定に至らない場合は、その一歩手前のパスポートダイバーに認定することもできる。 ※既にパスポートダイバー認定を受けている人、あるいはOWD認定を受けている人等で上位コース(アドバンスダイバー等)の受講を希望する人にも対応する。</p> <p>〔ディプロマポリシー及びカリキュラムポリシーとの関連する事項〕 ディプロマポリシーの1,2,3,4に関連し、カリキュラムポリシーの1-4,2-1,3-2,4-1に関連している。</p>									
到達 目標	NAUI OWD認定									
授 業 計 画										
回	主 題			授業内容・授業時間外の学修					備考	
1.	ガイダンス(7月)			・受講心得・交通手段・費用・装備・事前提出書類・eラーニング等について						
2.	NAUI OWD認定講習プログラム			<ul style="list-style-type: none"> ・学科講習:eラーニング+現地補講 ・実習地:北海道美国町(積丹半島) ・日 程:夏休み中 2泊3日+前後移動日 ・内 容 [1日目]午前:実技1 午後:実技2+学科補講 <li style="padding-left: 20px;">[2日目]午前:実技3 午後:実技4 <li style="padding-left: 20px;">[3日目]午前:実技5 午後:実技6 ▷「ログブック」記入による講習の振り返り 					<p>[反転学習(eラーニング)]は実習前に修了</p> <p>※DIVE-BIDS(美国ダイビングサービス)の正規講習を受講する。</p> <p>ペアワーク(バディシステム)</p> <p>フィールドワーク</p> <p>リフレクション</p>	
授業方法(レクチャー、グループワーク、実習、フィールドワーク等)	実習、フィールドワーク	グループワーク	ペアワーク	理解度チェック	リフレクションシート					
評価方法及び評価基準	OWD認定:100点 パスポートダイバー認定またはそれと同等のレベルに達している場合:80点 ※それ以外の場合は、受講状況と到達度により判断する。									
課題等	合宿による集中授業なので、集団生活への対応、特に他者との協調性が求められる。また、スクーバダイビングに対する身体的適応性の事前確認が必要									
事前事後学修	学科講習:実習前のeラーニングによる反転学習 [必須課題]足の届かない深さで泳げる(パニックにならない)ようになっていること。									
教材教科書参考書	事前に所定の教材及び各種確認書類を配布									
留意点	持病や体質等により受講できない場合があるので、登録前に必ず、担当教員と面談し 適性の確認 を受けること。(Teamsのチャットによるアポイント可) 履修登録者に対し、受講費内金として大学より¥20,000が徴収される。納入締切日(6月末頃)までの入金確認をもって履修確定とし、納入後にキャンセルした場合、この内金は返金されないため、登録には注意すること。受講費総額(内金含む)目安¥54,000程度(講習料、施設使用料、食費など)+北海道往復旅費 3学部合同実施 [視力について]球面度数-2.0(目安視力値0.2)以下の人は、度付きレンズマスクの購入が別途必要。(購入価格¥24,000+税程度)※コンタクトレンズの使用不可									

科目名	スポーツ科学実技J (アウトドアスポーツ:陸)		科目コード	W23021	単位数 時間	1単位	対象 学年	全学年	開講 学期	前期集中
			科目ナンバリング	W-TFGSO-18		16時間				
区分	総合科学系列科目 教職科目	選択 選択 必修	担当者名	棟方 達也			授業 形態	実技	単独	
授業の 概要等	〔授業の主旨〕 多様化するアウトドアスポーツの中から自身の脚力で陸上移動する2種目を日帰りまたは宿泊を伴って実施する。 〔ディプロマポリシー及びカリキュラムポリシーとの関連する事項〕 ディプロマポリシーの1, 2, 3, 4に関連し、カリキュラムポリシーの1-4, 2-1, 3-2, 4-1に関連している。									
	到達 目標	<ul style="list-style-type: none"> サイクリングの基礎と走り方の習得 登山の基礎と歩き方の習得 自然との望ましいつきあい方の体得 運動時における水分およびエネルギー補給の理解と実践 								
授 業 計 画										
回	主 題		授 業 内 容 ・ 授 業 時 間 外 の 学 修						備 考	
1.	ガイダンス		・実施方法 ・注意事項 ・グループ分け 等							
2.	サイクリング ※ママチャリ可 ※ヘルメット着用及び保険加入の義務付け		①基礎知識 ②計画と準備（コース、装備、飲食、自転車の整備 その他） ③実習 ・日程：土日または夏休み ・場所：津軽地方 ④報告書						フィールドワーク	
3.	登山		①基礎知識 ②計画と準備（コース、装備、飲食、パッキング その他） ③実習 ・日程：休日または夏休み ・場所：八甲田山系 ④報告書						グループワーク	
授業方法(レクチャー、実習、フィールドワーク等)	実習、フィールドワーク	グループワーク	理解度チェック	リフレクションシート						
評価方法及び評価基準	ガイダンスを含む授業参加状況：70点 報告書：30点（活動内容報告書を所定の書式に従い作成する。）									
課題等	事後報告書（コースタイム、コース状況、装備と飲食の振り返り等）の提出									
事前事後学修	・自転車に乗れること ・長時間の歩行に耐えられる体力を身につけておくこと									
教材教科書参考書	プリント資料の配布									
留意点	定員：12名（定員を超える受講希望がある場合、抽選） 交通費、食費等実費は自己負担 社会福祉学部と文学部の合同開講									

科目名	スポーツ科学実技H (柔道)		科目コード	W23019	単位数	1単位	対象	1年	開講	前期集中
			科目ナンバリング	W-TFGS0-19	時間	16時間	学年			
区分	総合科学系列科目 教職科目	選択 選択 必修	担当者名	高橋 俊哉 (実務経験のある教員)				授業 形態	実技	単独
授業の 概要等	〔授業の主旨〕 柔道の基本を楽しく学習します。 〔ディプロマポリシー及びカリキュラムポリシーとの関連する事項〕 ディプロマポリシーの1, 2, 3, 4に関連し、カリキュラムポリシーの1-4, 2-1, 3-2, 4-1に関連している。									
到達 目標	受け身を確実にマスターし、安全に試合を楽しむことができる。									
授 業 計 画										
回	主 題			授 業 内 容 ・ 授 業 時 間 外 の 学 修					備 考	
第1回	柔道とは			柔道の歴史と意義、基本動作						
第2回	足技 1			後ろ受け身、大内刈、小内刈					実習 グループワーク	
第3回	足技 2			横受け身、送足払、出足払					実習 グループワーク	
第4回	足技 3			横転横受け身、膝車、支釣込足					実習 グループワーク	
第5回	足技 4			大外刈、小外刈					実習 グループワーク	
第6回	腰技 1			前回り受け身、大腰					実習 グループワーク	
第7回	腰技 2			前回り受け身、釣込腰、体落、袈裟固					実習 グループワーク	
第8回	手技 1			背負投、払腰、内股、横四方固					実習 グループワーク	
第9回	固技 1			立ち技の練習法、上四方固					実習 グループワーク	
第10回	固技 2			約束稽古、縦四方固、肩固					実習 グループワーク	
第11回	固技 3			乱取り、関節技					実習 グループワーク	
第12回	固技 4			乱取り、絞め技					実習 グループワーク	
第13回	審判法			審判法、寝技の練習法					実習 グループワーク	
第14回	試合			試合					実習 グループワーク	
第15回	形			投の形					実習 グループワーク	
授業方法(レク シ、PPT、演習 等)	実習	グループワーク								
評価 方法 及び 評価 基準	授業態度及び参加度50点、実技試験50点により総合的に評価します。									
課題等	なし									
事前事後 学修	事前に柔道の試合について映像等で確認してください。									
教材 教科書 参考書	講道館ホームページ (http://kodokanjudo.institute.org)									
留意点	貸し出し用柔道着に限りがありますので、用意できる人は持参してください。									

科目名	日本史 A		科目コード	W63011	単位数	2単位	対象 学年	1年	開講 学期	前期
			科目ナンバリング	W-TFGS1-20	時間	30時間				
区分	総合科学系列科目 教職科目(中一種) (高一種【地歴】)	選択 必修	担当者名	斉藤 利男			授業 形態	講義	単独	
授業の 概要等	<p>〔授業の主旨〕</p> <p>日本史理解の出発点として、日本列島における原日本人の登場から、縄文・弥生時代、邪馬台国、ヤマト王権をへて、律令国家＝古代「日本国」が誕生するまでの、古代日本の歴史を学びます</p> <p>〔ディプロマポリシー及びカリキュラムポリシーとの関連する事項〕</p> <p>ディプロマポリシーの1, 2, 3, 4に関連し、カリキュラムポリシーの1-3, 2-2, 3-2, 4-2に関連している。</p>									
到達 目標	他の専門科目や2年次以降の専門科目の学習に必要な日本史（原始・古代史）に関する基本的知識を理解し説明できるようになり、歴史的なものの考え方や分析の方法を身につける。									
授 業 計 画										
回	主 題		授 業 内 容 ・ 授 業 時 間 外 の 学 修						備 考	
第1回	ガイダンス「書きかえられる古代史」		本授業のねらいと計画および学習方法について、映像教材なども使いながら、解説する						講義形式	
第2回	日本列島の誕生と縄文文化		日本列島の誕生と新石器文化＝縄文文化の内容・特徴について学ぶ						講義形式	
第3回	縄文時代の開始と東と西の文化圏		東北・東日本で栄えた縄文文化と縄文時代の歴史を学ぶ						講義形式	
第4回	弥生時代とはどういう時代か		鉄器農耕文化、文明の第1段階としての「弥生時代」の性格を学ぶ						講義形式	
第5回	渡来人と弥生時代の開始		「稲作の伝来」と弥生時代の始まりについて、映像も使いながら学ぶ						講義形式	
第6回	弥生社会の発展と「倭国」の誕生 1		研究の発展で書きかえられた弥生時代の歴史を学ぶ						講義形式	
第7回	弥生社会の発展と「倭国」の誕生 2		奴国の登場から邪馬台国までの「倭国」の歴史を学ぶ						講義形式	
第8回	邪馬台国研究の現在		映像資料や文献資料「魏志倭人伝」全文を使いながら、邪馬台国研究の現在の到達点を学ぶ。ミニレポートはここまでの総括						講義形式	
第9回	ヤマト王権と倭王国 1		崇神王朝・応神王朝とヤマト王権の誕生を学ぶ						講義形式	
第10回	ヤマト王権と倭王国 2		古墳文化とヤマト王権の発展、および朝鮮半島諸国との軍事同盟について学ぶ						講義形式	
第11回	統一国家「日本国」への道		ヤマト王権から律令国家への発展過程を、国内・国際の2つの視点から概括する						講義形式	
第12回	冊封体制と日本国		東アジア世界の国際秩序「冊封体制」とそこからの離脱について学ぶ						講義形式	
第13回	古代統一国家「日本国」の形成 1		継体王朝の成立から乙巳の変（大化の改新）に至る過程を学ぶ						講義形式	
第14回	古代統一国家「日本国」の形成 2		乙巳の変（大化の改新）以後の律令国家成立に至る歴史を学ぶ						講義形式	
第15回	古代統一国家「日本国」のシステム		完成した古代律令国家「日本国」の国家システムについて学ぶ						講義形式	
授業方法(ゼミナール、PBL等)	PBL(問題解決型学習)	理解度チェック	学生から出された質問に対しては、全員で考える機会として活用し、教師側からの再質問も交えながら双方向的授業を行います。							
評価方法及び評価基準	毎回講義終了後、講義の内容に関するミニレポートを提出してもらい(15回×2点＝30点, 30%)、学期末に講義の内容と到達目標に応じた定期試験を行います(70点, 70%)。定期試験は答案の構成や論理性を重視し、両者を合わせて総合評価(合計100点, 100%)とします。									
課題等	提出されたミニレポートは、次回の授業で紹介し(質問には回答を行います)、授業内容に反映させます。									
事前事後学修	授業に先立って教科書代わりのテキストを配布しますので、あらかじめテキストを読んで準備しておいて下さい。また授業後は講義の内容とテキストを照らし合わせて再確認したり、考える機会として下さい。時間はあわせて3時間程度が理想です。									
教材教科書参考書	当方作成の講義テキスト(地図・写真・資料つき)を教科書に代わる教材として配布します。参考書は講義の進行に合わせて指示します。									
留意点	知は力なり、そして継続も力です。基本的な質問も含め、講義内容に対する質問を大いに歓迎します。									

科目名	日本史B		科目コード	W63012	単位数	2単位	対象 学年	1年	開講 学期	後期
			科目ナンバリング	W-TFGS1-21	時間	30時間				
区分	総合科学系列科目 教職科目(中一種) (高一種【地歴】)	選択 必修	担当者名	斉藤 利男			授業 形態	講義	単独	
授業の 概要等	<p>〔授業の主旨〕</p> <p>日本史理解の基本テーマとして、幕末・明治維新から、近代国家の成立、日清・日露戦争をへて、「大日本帝国」が成立するまでの近代日本の歴史を学び、さらに、その後の日中戦争から太平洋戦争に至る過程を展望します。</p> <p>〔ディプロマポリシー及びカリキュラムポリシーとの関連する事項〕</p> <p>ディプロマポリシーの1, 2, 3, 4に関連し、カリキュラムポリシーの1-3, 2-2, 3-2, 4-2に関連している。</p>									
到達 目標	他の専門科目や2年次以降の専門科目の学習に必要な日本近代史（幕末・明治維新から日清・日露戦争をへて大日本帝国の成立まで）に関する基本的知識を理解し説明できるようになり、歴史的なものの考え方や分析の方法を身につける。									
授 業 計 画										
回	主 題		授 業 内 容 ・ 授 業 時 間 外 の 学 修						備 考	
第1回	ガイダンス—戦前の日本はどんな国だったか		本授業のねらいを、映像教材を使いながら解説します。						講義形式	
第2回	開国		ペリー来航と「開国」の実像を学ぶ						講義形式	
第3回	近代国家への課題		開国が鎖国日本に与えた衝撃と幕末の激動の始まりについて学ぶ						講義形式	
第4回	尊王攘夷と幕末の政治抗争 1		幕末の政治史を学ぶ（1）安政の大獄から尊攘運動の挫折まで						講義形式	
第5回	尊王攘夷と幕末の政治抗争 2		幕末の政治史を学ぶ（2）討幕派の誕生から王政復古クーデターまで						講義形式	
第6回	戊辰戦争と明治維新		幕末の政治史を学ぶ（3）、ミニレポートはここまでの総括						講義形式	
第7回	明治日本の課題		明治維新後の日本が直面した課題について学ぶ						講義形式	
第8回	軍事大国路線の選択		明治政府が「軍事大国」路線を選択してゆく過程を学ぶ						講義形式	
第9回	日清戦争への道		日清戦争は何のための戦争だったのかを学ぶ						講義形式	
第10回	日清戦争圧勝と三国干渉		日清戦争の大勝利がもたらした結果について学ぶ						講義形式	
第11回	日清から日露へ		日清戦争後の日本とアジアについて学ぶ、ミニレポートはこの間の総括						講義形式	
第12回	日英同盟と日露開戦		日本が超大国ロシアと戦うことになったいきさつを学ぶ						講義形式	
第13回	日露戦争、薄氷の勝利		「日露戦争勝利」の内実とポーツマス条約の獲得物について学ぶ						講義形式	
第14回	「大日本帝国」の成立		日露戦争勝利で「大日本帝国」が成立したこと、その内容を学ぶ						講義形式	
第15回	アジア太平洋戦争への道		「大日本帝国」のその後を学ぶ、ミニレポートは全体の総括						講義形式	
授業方法 (ゼミナ ル、PBL、フ ラッグ等)	PBL (問題解決型 学習)	理解度チェック								
	学生から出された質問に対しては、全員で考える機会として活用し、教師側からの再質問も交えながら双方向的授業を行います。									
評価 方法 及び 評価 基準	毎回講義終了後、講義の内容に関するミニレポートを提出してもらい（15回×2点＝30点、30%）、学期末に講義の内容と到達目標に応じた定期試験を行います（70点、70%）。定期試験は答案の構成や論理性を重視し、両者を合わせて総合評価（合計100点、100%）とします。									
課題等	提出されたミニレポートは、次回の授業で紹介し（質問には回答を行います）、授業内容に反映させます。									
事前事後 学修	授業に先立って教科書代わりのテキストを配布しますので、あらかじめテキストを読んで準備しておいて下さい。また授業後は講義の内容とテキストを照らし合わせて再確認したり、考える機会として下さい。時間はあわせて3時間程度が理想です。									
教材 教科書 参考書	当方作成の講義テキスト（地図・写真・資料つき）を教科書に代わる教材として配布します。参考書は講義の進行に合わせて指示します。									
留意点	知は力なり、そして継続も力です。基本的な質問も含め、講義内容に対する質問を大いに歓迎します。									

科目名	歴史と社会A		科目コード	W63013	単位数 時間	2単位 30時間	対象 学年	1年	開講 学期	前期
			科目ナンバリング	W-TFGS1-22						
区分	総合科学系列科目 教職科目(中一種) (高一種【地歴】)	選択 必修	担当者名	松本 郁代			授業 形態	講義	単独	
授業の 概要等	<p>〔授業の主旨〕</p> <p>欧米における社会福祉の歴史について概観する。</p> <p>〔ディプロマポリシー及びカリキュラムポリシーとの関連する事項〕</p> <p>ディプロマポリシーの1, 2, 3, 4に関連し、カリキュラムポリシーの1-3, 2-2, 3-2, 4-2に関連している。</p>									
到達 目標	世界で最初に産業革命が起きた国であるイギリスにおいて、生活問題の対応として、社会福祉の原型から現在の形に整えていったのか、その過程を知ること。									
授 業 計 画										
回	主 題			授 業 内 容 ・ 授 業 時 間 外 の 学 修					備 考	
第1回	欧米における社会福祉の歴史			欧米における社会福祉の歴史を学ぶ意義						
第2回	古代における社会福祉の歴史①			古代都市国家における社会福祉の歴史①						
第3回	古代における社会福祉の歴史②			古代都市国家における社会福祉の歴史②						
第4回	古代における社会福祉の歴史③			古代都市国家における社会福祉の歴史③						
第5回	中世における社会福祉の歴史①			中世ヨーロッパにおける社会福祉の歴史①						
第6回	中世における社会福祉の歴史②			中世ヨーロッパにおける社会福祉の歴史②						
第7回	近代における社会福祉の歴史①			近代における欧米の社会福祉の歴史①						
第8回	近代における社会福祉の歴史②			近代における欧米の社会福祉の歴史②						
第9回	近代における社会福祉の歴史③			近代における欧米の社会福祉の歴史③						
第10回	近代における社会福祉の歴史④			近代における欧米の社会福祉の歴史④						
第11回	近代における社会福祉の歴史⑤			近代における欧米の社会福祉の歴史⑤						
第12回	現代における社会福祉①			現代における欧米の社会福祉の歴史①						
第13回	現代における社会福祉②			現代における欧米の社会福祉の歴史②						
第14回	現代における社会福祉③			現代における欧米の社会福祉の歴史③						
第15回	まとめ			現在日本の社会福祉の到達点と欧米の比較						
授業方法(レクチャー、グループワーク等)	文献複写・報告、第16回の講義は、日本の社会福祉の歩みとの比較について講義する									
評価 方法 及び 評価 基準	客観式・短答式の試験100%									
課題等	随時指示する									
事前事後 学修	課題を示した場合に、あらかじめ読んでおくこと。資料やコピーを、この講義の為だけのファイルを準備して整理すること。高校で学んだ世界史を復習しておくこと。									
教材 教科書 参考書	岩崎晋也(2018)『福祉原理』有斐閣、辞書類を持参のこと									
留意点	遅刻・私語厳禁									

科目名	歴史と社会B		科目コード	W63014	単位数 時間	2単位	対象 学年	1年	開講 学期	後期
			科目ナンバリング	W-TFGS1-23		30時間				
区分	総合科学系列科目 教職科目(中一種) (高一種【地歴】)	選択 必修	担当者名	松本 郁代			授業 形態	講義	単独	
授業の 概要等	[授業の主旨] イギリスにおける社会福祉の歴史を人物史を通して講義する [ディプロマポリシー及びカリキュラムポリシーとの関連する事項] ディプロマポリシーの1, 2, 3, 4に関連し、カリキュラムポリシーの1-3, 2-2, 3-2, 4-2に関連している。									
到達 目標	イギリスにおける現在の社会福祉について、その歴史的過程における人物を知ることによって理解する。									
授 業 計 画										
回	主 題			授業内容・授業時間外の学修					備考	
第1回	イギリスの社会福祉			イギリスの社会福祉における人物史を学ぶ意味						
第2回	ビアトリス・ポッターについて			ビアトリス・ポッターの生育歴						
第3回	ビアトリスを取り巻く人々①			ビアトリスの家庭教師と周辺の人物						
第4回	COS活動			COS活動からイースト・エンドへ						
第5回	ウェブ夫妻について			ビアトリスとそのパートナー						
第6回	ビアトリスの研究活動			ビアトリスの論文						
第7回	王立委員会の設置			オクタヴィア・ヒルとチャールズ・ロック						
第8回	ヘレン・ポーザンケトとビアトリス			ビアトリスと仕事仲間						
第9回	王立委員会におけるビアトリス			少数派報告への道						
第10回	王立委員会報告			多数派報告と少数派報告						
第11回	ビアトリスの思想			イギリスの社会科学的思想系譜						
第12回	ビアトリスの評価			救貧法の廃止						
第13回	ビアトリスを取り巻く人々②			フェビアン協会員						
第14回	ビアトリスを取り巻く人々③			シドニーの影響						
第15回	まとめ			「歴史と社会A」との関連						
授業方法(レクチャー、グループワーク等)	文献複写・報告、第16回の講義は、ウェブ夫妻が来日した際のことを講義する									
評価方法及び評価基準	短答式・客観式の問題のみで評価する									
課題等	その都度、指示をする。									
事前事後学修	その都度、指示をする。									
教材教科書参考書	金子光一(1997)『ビアトリス・ウェブの福祉思想』ドメス出版(ISBN: 4-8107-0466-1), 辞書類を持参のこと									
留意点	「歴史と社会A」を履修していることが、この科目を登録する際の要件となる。辞書類を持参のこと。									

科目名	人文地理学A		科目コード	W63015	単位数 時間	2単位	対象 学年	2年	開講 学期	前期
			科目ナンバリング	W-TFGS2-24		30時間				
区分	総合科学系列科目 教職科目(中一種) (高一種【地歴】)	選択 必修	担当者名	()			授業 形態	講義	単独	
授業の 概要等	【授業の主旨】									
	【ディプロマポリシー及びカリキュラムポリシーとの関連する事項】 ディプロマポリシーの1, 4, 5に関連し、カリキュラムポリシーの1-3, 4-2, 5-3に関連している。									
到達 目標										
授 業 計 画										
回	主 題			授 業 内 容				備 考		
第1回	別 紙 掲 載									
第2回										
第3回										
第4回										
第5回										
第6回										
第7回										
第8回										
第9回										
第10回										
第11回										
第12回										
第13回										
第14回										
第15回										
授業方法(レク ム、演習(ア、 シ、テ)等)										
評価 方法 及び 評価 基準										
課題等										
事前事 後学修										
教材 教科書 参考書										
留意点										

科目名	人文地理学B		科目コード	W63016	単位数 時間	2単位	対象 学年	2年	開講 学期	後期
			科目ナンバリング	W-TFGS2-25		30時間				
区分	総合科学系列科目 教職科目(中一種) (高一種【地歴】)	選択 必修	担当者名	()			授業 形態	講義	単独	
授業の 概要等	【授業の主旨】									
	【ディプロマポリシー及びカリキュラムポリシーとの関連する事項】 ディプロマポリシーの1, 4, 5に関連し、カリキュラムポリシーの1-3, 4-2, 5-3に関連している。									
到達 目標										
授 業 計 画										
回	主 題			授 業 内 容				備 考		
第1回	別 紙 掲 載									
第2回										
第3回										
第4回										
第5回										
第6回										
第7回										
第8回										
第9回										
第10回										
第11回										
第12回										
第13回										
第14回										
第15回										
授業方法(レクチャー、グループワーク等)										
評価 方法 及び 評価 基準										
課題等										
事前事 後学修										
教材 教科書 参考書										
留意点										

科目名	自然地理学 A		科目コード	W63017	単位数 時間	2単位 30時間	対象 学年	2年	開講 学期	前期
			科目ナンバリング	W-TFGS2-26						
区分	総合科学系列科目 教職科目(中一種) (高一種【地歴】)	選択 必修	担当者名	()			授業 形態	講義	単独	
授業の 概要等	[授業の主旨]									
	[ディプロマポリシー及びカリキュラムポリシーとの関連する事項] ディプロマポリシーの1, 2, 3, 4に関連し、カリキュラムポリシーの1-3, 2-2, 3-2, 4-2に関連している。									
到達 目標										
授 業 計 画										
回	主 題			授 業 内 容				備 考		
第1回	別 紙 掲 載									
第2回										
第3回										
第4回										
第5回										
第6回										
第7回										
第8回										
第9回										
第10回										
第11回										
第12回										
第13回										
第14回										
第15回										
授業方法(レジュメ シド、PPT/ア・ラニ ング等)										
評価 方法 及び 評価 基準										
課題等										
事前事 後学修										
教材 教科書 参考書										
留意点										

科目名	自然地理学B		科目コード	W63018	単位数 時間	2単位	対象 学年	2年	開講 学期	後期
			科目ナンバリング	W-TFGS2-27		30時間				
区分	総合科学系列科目 教職科目(中一種) (高一種【地歴】)	選択 必修	担当者名	()			授業 形態	講義	単独	
授業の 概要等	[授業の主旨]									
	[ディプロマポリシー及びカリキュラムポリシーとの関連する事項] ディプロマポリシーの1, 2, 3, 4に関連し、カリキュラムポリシーの1-3, 2-2, 3-2, 4-2に関連している。									
到達 目標										
授 業 計 画										
回	主 題			授 業 内 容				備 考		
第1回	別 紙 掲 載									
第2回										
第3回										
第4回										
第5回										
第6回										
第7回										
第8回										
第9回										
第10回										
第11回										
第12回										
第13回										
第14回										
第15回										
授業方法(レクチャー、グループワーク等)										
評価 方法 及び 評価 基準										
課題等										
事前事 後学修										
教材 教科書 参考書										
留意点										

科目名	地誌 A		科目コード	W63019	単位数 時間	2単位	対象 学年	1年	開講 学期	前期
			科目ナンバリング	W-TFGS1-28		30時間				
区分	総合科学系列科目 教職科目(中一種) (高一種【地歴】)	選択 必修	担当者名	()			授業 形態	講義	単独	
授業の 概要等	【授業の主旨】									
	[ディプロマポリシー及びカリキュラムポリシーとの関連する事項] ディプロマポリシーの1, 2, 3, 4に関連し、カリキュラムポリシーの1-3, 2-2, 3-2, 4-2に関連している。									
到達 目標										
授 業 計 画										
回	主 題			授 業 内 容				備 考		
第1回	別 紙 掲 載									
第2回										
第3回										
第4回										
第5回										
第6回										
第7回										
第8回										
第9回										
第10回										
第11回										
第12回										
第13回										
第14回										
第15回										
授業方法(レクチャー、グループワーク、フィールドワーク等)										
評価 方法 及び 評価 基準										
課題等										
事前事 後学修										
教材 教科書 参考書										
留意点										

科目名	地誌B		科目コード	W63020	単位数 時間	2単位	対象 学年	1年	開講 学期	後期
			科目ナンバリング	W-TFGS1-29		30時間				
区分	総合科学系列科目 教職科目(中一種) (高一種【地歴】)	選択 必修	担当者名	()			授業 形態	講義	単独	
授業の 概要等	【授業の主旨】									
	【ディプロマポリシー及びカリキュラムポリシーとの関連する事項】 ディプロマポリシーの1, 2, 3, 4に関連し、カリキュラムポリシーの1-3, 2-2, 3-2, 4-2に関連している。									
到達 目標										
授 業 計 画										
回	主 題			授 業 内 容					備 考	
第1回	別 紙 掲 載									
第2回										
第3回										
第4回										
第5回										
第6回										
第7回										
第8回										
第9回										
第10回										
第11回										
第12回										
第13回										
第14回										
第15回										
授業方法(レクチャー、グループワーク等)										
評価 方法 及び 評価 基準										
課題等										
事前事 後学修										
教材 教科書 参考書										
留意点										